

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	アジア観光論B (Asian Tourism Studies B)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	大井 功									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>21世紀、世界はアジアを中心に大交流時代に入ります。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動基準を学び、アジア観光の未来を討議する。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>アジアの文化を学び、アジアの人々と交流ができる。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読む		講義 90分		
2	アジアの宗教（Ⅰ）アジア各地で信じられている宗教を学び交流の仕方を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
3	アジアの宗教（Ⅱ）アジア各地で信じられている宗教を学び、交流の仕方を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
4	アジアの宗教（Ⅲ）アジア各地で信じられている宗教を学び、交流の仕方を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
5	レポート開発：南の島で開発されるリゾートとその問題点を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
6	途上国観光：途上国における観光の経済的価値と失われるものを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
7	人身売買：なぜ人身売買が起こるのか、人身売買をしてどうするのかを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
8	アジアの世界遺産：なぜ欧州に世界遺産は偏在するのか、アジアの代表的な世界遺産を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
9	麻薬問題：欧州では、なぜ麻薬の取り締まりが緩和されつつあるのかを考え、討議する					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
10	水問題：今まで、石油の奪い合いが戦争に発展したが、今後は水の奪い合いが戦争になるとなぜ言われるのかを考え、討議する					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
11	アジア史：アジアのほとんどの国が植民地化されてしまった中で、なぜ、日本とタイだけが植民地化されなかったのかを考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
12	ロングステイ：避暑、悲観などの気候や経済的理由などで居住地を変更する場合の課題を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
13	東南アジア：政治経済や文化で注目されている国々を取り上げ、実態を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
14	貧困問題：貧困から起きる問題を取り上げ、解決策を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
15	白人略奪の歴史：アジアの資源、文化がどのように略奪されていったのかを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分		
<p>教本：</p> <p>プリントを配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>藤岡信勝著「教科書が教えない東南アジア」扶桑社 ¥1,500+税</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>平常点（授業参画度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	アジア文化研究 A (Asian Cultural Studies A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動の基準を学ぶ。									
授 業 目 標 : アジアの文化を学び、アジアの人々と国際交流ができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読む		講義 90分	
2	アジアがわかる(I)：アジアの政治体制やアジア民族を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	アジアがわかる(II)：アジアの経済動向やアジアの貿易を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	アジアの女性たち：アジアの女性指導者、人身売買を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	イスラム文化：イスラム教徒の世界観や他の宗教との関係を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	仏教文化：輪廻転生、仏教の教えなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ヒンドゥー教：カースト制度、サティ、ダウリ、幼児婚を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	ユダヤ文化：旧約聖書、バルフォア宣言、ユダヤ人を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	キリスト文化：新約聖書、宗教改革、キリスト教の矛盾を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	神道文化：穢れと差別、言霊、怨霊信仰、天皇崇拝を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	儒教文化：批林批孔、位牌のルーツ、忠孝一致を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	武士道：武士道と騎士道、名誉、切腹、内助の功を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	客 家：流浪の民、男女平等の中の貞女、客家系財閥を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	風 水：陰陽五行、風水都市、五行早生を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	チベット仏教：ダライ・ラマ14世、中道のアプローチを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教 本 : プリントを配布する。					参 考 文 献 : 1. 御堂龍児著「風水の秘密」 ごま書房 ¥866+税 2. 大井功著「チベット文化を読み解く」 祥伝社 ¥780+税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (授 業 参 画 度、小 テ ス ト 等) (40%)、定 期 試 験 (60%) 等									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : グ ロー バ ル に 活 躍 し た い 人、ア ジ ア を 愛 す る 人、楽 し く 学 び ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ア ジ ア 文 化 研 究 B (Asian Cultural Studies B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの現状と課題を学ぶ。									
授 業 目 標 : アジアの課題を知り、解決策がわかる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ア ジ ア の 水 問 題 : 水 不 足 と 水 汚 染、地 下 水 の 危 機、国 際 河 川、水 道 の 民 営 化 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : な し 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
2	タ ク シ ン と 国 王 : タ ク シ ン 逃 亡、ク ー デ タ ー、軍 の 利 権 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
3	麻 薬 文 化 : 阿 片 戦 争、日 本 と 阿 片、マ リ フ ア ナ と 喫 煙 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
4	人 身 売 買 : 子 供 の 誘 拐、臓 器 売 買、ベ ド フ ァ イ ル を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
5	ア ジ ア の リ ゾ ー ト : リ ゾ ー ト 開 発 と 観 光 文 化 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
6	ア ジ ア の 世 界 遺 産 : 世 界 遺 産 リ ス ト の 問 題 点 を 考 察 し、討 議 す る。(ア ン コ ー ル ・ ワ ッ ト、タ ー ジ マ ハ ル な ど)					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
7	ロ ン グ ス テ イ : 日 本 人 移 民、シ ル バ ー コ ロ ン ビ ア 計 画、海 外 ロ ン グ ス テ イ を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
8	途 上 国 観 光 : 途 上 国 の 観 光 資 源、観 光 の 波 及 効 果 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
9	華 人 : ア リ バ バ 商 法、ブ リ プ ミ、ベ ラ ナ カ ン な ど を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
10	貧 困 : 物 乞 い と 宗 教、薬 物 依 存、児 童 労 働 な ど を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
11	白 人 略 奪 の 歴 史 : マ ゼ ラ ン の 海 賊 行 為、イ エ ズ ス 会 と 殺 戮 な ど を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
12	ア ジ ア 史 の 真 実 : 大 英 帝 国 と イ ン ド、日 露 戦 争 の 意 味 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
13	東 南 ア ジ ア 史 : 経 済 発 展、独 立、開 発 独 裁 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
14	シ ン ガ ポ ー ル の 過 去 ・ 現 在 : 政 治 的 安 定 と 高 い 経 済 水 準 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
15	パ レ ス チ ナ 問 題 : イ ギ リ ス の 三 枚 舌 外 交 の 結 末 を 考 察 し、討 議 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義 50分 映 像 20分 討 議 20分	
教 本 : プ リ ン ト を 配 布 す る。					参 考 文 献 : 1. 柴 田 明 夫 著 「水 戦 争」 ¥760+税 2. 山 下 清 海 著 「チ ャ イ ナ タ ウ ン」 丸 善 ¥2,300+税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (授 業 参 画 度、小 テ ス ト 等) (40%)、定 期 試 験 (60%) 等									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : グ ロー バ ル に 活 躍 し た い 人、ア ジ ア を 愛 す る 人、楽 し く 学 び ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	アフリカ文化研究 A (Introduction to African Cultures A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	高 校 レ ベ ル の 地 理 ・ 世 界 史 の 知 識 。 G o o g l e C l a s s r o o m 利 用 。							
授業概要： 人類史、生態環境、生業、言語について学んだ後、東アフリカと南部アフリカを中心に、アフリカの多様性、植民地にされた経験、困難と可能性について学ぶ。理解度はリアクションペーパー・小テストで確認する。									
授業目標： 1. アフリカについて、人類誕生以後の歴史を理解する。 2. 東、南部アフリカの歴史的経験、現在について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1・2	人類誕生、進化、認知革命、移動の歴史について学ぶ。「人種」概念の社会的構築性から外見に対する思い込みを話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
3・4	アフリカ大陸の多様な生態環境、生業、言語に学ぶ。狩猟採集の現代日本人の働き方について議論する。					事前：高校地理を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
5	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、テスト 30分	
6	東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易。奴隷交易前後、その影響について理解する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
7	東アフリカから学ぶヨーロッパ列強による植民地支配、アフリカ地域の分割の経緯。「民族」創出と固定化について議論する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
8	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、テスト 30分	
9	南部アフリカから学ぶアフリカ諸国の独立、後期植民地主義。旧宗主国の影響の大きさについて議論する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
10	南アフリカについて、アパルトヘイト体制、マンデラ以後の政策について学ぶ。スポーツと植民地支配と独立国家の関係について話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
11	南部アフリカから学ぶ「民族紛争」の背景。冷戦時代の代理戦争、冷戦後の資源競争から考える。資源について議論しあう。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
12	同時代性を理解するために、音楽やダンスや工芸などのポピュラーアートについて学ぶ。自分との繋がりを考える。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
13	多様性、困難、可能性について学ぶ。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
14	総まとめ：アフリカ社会を学ぶ					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、質疑応答 30分	
15	映像鑑賞、ディスカッションを行う。					事前：メディア情報収集 事後：ワークシート記入		視聴 60分、 ディスカッション 30分	
教本： 購買部での予約購入はできないが、初回講義日に文献情報を伝えるので受 講者は2回目までに各自入手する。					参考文献： そのつど紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ステレオタイプや各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	アフリカ文化研究 B (Introduction to African Cultures B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	高 校 レ ベ ル の 地 理 ・ 世 界 史 の 知 識 。 G o o g l e C l a s s r o o m 利 用 。							
授業概要： 人類史、生態環境、生業、言語について学んだ後、西アフリカと中央アフリカを中心に、アフリカの多様性、植民地にされた経験、困難と可能性について学ぶ。理解度はリアクションペーパー・小テストで確認する。									
授業目標： 1. アフリカについて、人類誕生以後の歴史を理解する。 2. 西、中央アフリカの歴史的経験、現在について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1・2	人類誕生、進化、認知革命、移動の歴史について学ぶ。「人種」概念の社会的構築性から外見に対する思い込みを話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
3・4	アフリカ大陸の多様な生態環境、生業、言語に学ぶ。狩猟採集の現代日本人の働き方について議論する。					事前：高校地理を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
5	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、テスト 30分	
6	西アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易。奴隷交易前後、その影響について理解する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
7	西アフリカから学ぶヨーロッパ列強による植民地支配、アフリカ地域の分割の経緯。「民族」創出と固定化について議論する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
8	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、テスト 30分	
9	アパルトヘイト体制、マンデラ以後について学ぶ。スポーツと植民地支配と独立国家の関係について話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
10	中央アフリカから学ぶアフリカ諸国の独立、後期植民地主義。旧宗主国の影響の大きさについて議論する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
11	中央アフリカから学ぶ「民族紛争」の背景。冷戦時代の代理戦争、冷戦後の資源競争から考える。資源について議論しあう。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
12	同時代性を理解するために、音楽やダンスや工芸などのポピュラーアートについて学ぶ。自分との繋がりを考える。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
13	多様性、困難、可能性について学ぶ。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
14	まとめ：アフリカ社会を学ぶ					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、質疑応答 30分	
15	映像視聴：ディスカッションを行う。					事前：メディア情報収集 事後：ワークシート記入		視聴 60分、 ディスカッション 30分	
教本： 購買部での予約購入はできないが、初回講義日に文献情報を伝えるので受 講者は2回目までに各自入手する。					参考文献： そのつど紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ステレオタイプや各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アメリカ観光論 A (American Tourism Studies A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>アメリカは世界有数の観光大国です。世界各地の人々が大学してアメリカを訪問するようになり、アメリカ国内においても訪米外国人観光客から得られる観光収入・輸出額は、アメリカ経済の中でも重要な地位を確立するに至っています。この講義では、アメリカ観光の概要から、観光を支える各産業分野、アメリカ政府（連邦・州・自治体）の観光政策などについて学んでいきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>世界の人々をさまざまに魅了するアメリカについて、その観光分野を幅広く理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式 (注)WS：授業終了前15分程度で、与えられたテーマについて150字程度の文章を作成・提出									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：配布物復習		講義	
2	アメリカ観光の概要①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
3	アメリカ観光の概要②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
4	アメリカの交通・輸送産業①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
5	アメリカの交通・輸送産業②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
6	アメリカの宿泊産業①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
7	アメリカの宿泊産業②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
8	アメリカの旅行産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
9	中間テスト					事前：前半の復習 事後：テストの復習		小テストの実施・フィードバック	
10	アメリカの観光政策①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
11	アメリカの観光政策②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
12	アメリカの文化遺産保護					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
13	アメリカのスポーツ産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
14	アメリカのテーマ・パーク産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
<p>教本：</p> <p>特に指定はありません。</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業ごとに配布物を配り、それに従って授業を進めます。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>世界有数の観光大国であるアメリカには、人々を魅了する観光資源が豊富に存在します。アメリカ各地の観光資源がどのように開発、活用され、またどのような産業が支えているのか、アメリカ観光の概要を知ることができます。興味があれば受講してみてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アメリカ観光論 B (American Tourism Studies B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>アメリカは世界有数の観光大国です。世界各国の人々が大学してアメリカを訪問するようになり、アメリカ国内においても訪米外国人観光客から得られる観光収入・輸出額は、アメリカ経済の中でも重要な地位を確立するに至っています。この講義では、アメリカの観光政策と、各州、各自治体の事例について学んでいきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>世界の人々をさまざまに魅了するアメリカについて、その観光政策の事例を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
<p>授業計画、事前学習・事後学習、形式 (注)WS：授業終了前15分程度で、与えられたテーマについて150字程度の文章を作成・提出</p>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：配布物復習		講義	
2	アメリカの観光政策の概要					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
3	事例①：ハワイ州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
4	事例②：カリフォルニア州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
5	事例③：ニューヨーク州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
6	事例④：ワシントンD.C.					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
7	事例⑤：フロリダ州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
8	事例⑥：ネバダ州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
9	事例⑦：アラスカ州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
10	中間テスト					事前：前半の復習 事後：テストの復習		小テストの実施、フィードバック	
11	各都市の観光政策：シアトル、フィラデルフィア					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
12	アメリカの国立公園					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
13	アメリカの食文化					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
14	アメリカの博物館・美術館					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
<p>教本： 特になし。</p> <p>参考文献： 授業ごとに配布物を配り、それに従って授業を進めます。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>世界有数の観光大国であるアメリカには、人々を魅了する観光資源が豊富に存在します。アメリカ各地の観光資源がどのように開発、活用され、またどのような産業が支えているのか、アメリカ観光の概要を知ることができます。興味があれば受講してみてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	アメリカ文化研究 A (American Studies A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
太平洋戦争を経て同盟国となったアメリカは、戦後の日本に対して常に大きな影響力を持ち続けています。アメリカの政治、経済や文化、科学技術などに関する情報も、日本でもメディアを通じて身近に触れることが可能です。もちろん、アメリカは国際社会での影響力をその建国から持ち合わせていたわけではありません。国としての歴史は約250年余りでありながらも、現在、日本を含めて世界各地に大きな影響力を持つに至っています。講義では、アメリカの歴史と文化について、北米先住民の歴史から21世紀まで、その基礎的な流れをお話ししていきます。現在のアメリカへの我々の見方を、より「複眼的」に捉えられるようになることを目指します。講義の中でQ&Aも時節行います。									
授 業 目 標 :									
1. アメリカの歴史、文化に関する基礎的な知識レベルに到達する。									
2. 他国の歴史と文化の理解を通じて、物事への「複眼思考」を養い、身の回りの出来事への客観的態度を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：アメリカの歴史をアメリカ人はどのようなものと捉えているかを概略します。自己紹介。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義と対話	
2	北米大陸先住民の世界：ヨーロッパ人入植以前の先住民の歴史・文化を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	植民地時代：独立までの約170年間、イギリス領植民地における「新世界」建設のプロセスを説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
4	アメリカ独立革命：イギリス領であった北米植民地がいかなる経緯を経て独立を成功させたのか、その背景を概略します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
5	「アメリカ合衆国」の建設：建国初期「共和国」をめぐる国家機構の整備において、憲法と指導者たちの思想を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
6	領土の拡大：19世紀半ばには太平洋までの広大な領土を持つに至った「西漸運動」の様相をお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
7	南北戦争と「再建」：「奴隷制」をめぐる対立が未曾有の内戦を生じさせます。その前史と「再建時代」も含めて学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
8	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：テストの復習		小テストの実施、 フィードバック	
9	金ぴか時代と「革新主義」：戦後、飛躍的な経済発展と海外進出がなされる中での、国内の混乱と社会運動を整理します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
10	第一次世界大戦と1920年代：大戦後、国際政治の表舞台に立ち、空前の好景気を享受するアメリカ社会の様相を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
11	ニューディールと第二次世界大戦：大恐慌による社会の混乱とローズベルト大統領、第二次大戦中のアメリカを概略します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
12	冷戦とアメリカ外交：第二次大戦後勃発する「冷戦」への対応とアメリカ外交の変遷を理解します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
13	第二次対戦後から1970年代のアメリカ社会：戦後経済繁栄を謳歌する中で、様々な展開を見せる社会運動を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
14	21世紀のアメリカ：1990年代冷戦の終結をへて21世紀を迎えたアメリカの内政・外交政策を整理します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
教 本 :									
和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』(ミネルヴァ書房、2014年)、¥3,000。					参 考 文 献 :				
毎 回 配 布 資 料 を 配 り ます。それによって授業を進めていきます。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
授 業 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
ア メ リ カ と い う 国 に つ い て、日 本 で も 多 く の 情 報 を 得 ら れ る が ゆ え に、実 は そ こ に は 思 い 込 み や 誤 解 な ど も 生 じ や す い 国 で も あ り ます。ア メ リ カ に つ い て の 断 片 的 な 情 報 を、そ の 歴 史 と 文 化 を 学 ぶ こ と に よ っ て 整 理 す る 手 助 け に な る と 考 え ます。関 心 が あ れ ば 受 講 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	アメリカ文化研究 B (American Studies B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 太平洋戦争を経て同盟国となったアメリカは、戦後の日本に対して常に大きな影響力を持ち続けています。アメリカの政治、経済や文化、科学技術などに関する情報も、日本でもメディアを通じて身近に触れることが可能です。もちろん、アメリカは国際社会での影響力をその建国から持ち合わせていたわけではありません。国としての歴史は約250年余りでありながらも、現在、日本を含めて世界各地に大きな影響力を持つに至っています。講義では、アメリカの社会と文化について、国家としての特徴、精神性、構造などを、図表を交えながらお話しします。現在のアメリカへの我々の見方を、より「複眼的」に捉えられるようになることを目指します。講義の中でQ&Aも時節行います。									
授業目標： 1. アメリカの歴史、文化に関する基礎的な知識レベルに到達する。 2. 他国の歴史と文化の理解を通じて、物事への「複眼思考」を養い、身の回りの出来事への客観的態度を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：日本にとって身近な国である「アメリカ」は、我々にとってどのような存在なのか、また自己紹介。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義と対話	
2	移民社会アメリカ：アメリカは「多様性」を特徴とします。その根本である移民社会について、学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	アメリカの個人主義：アメリカ人の行動原理である「個人主義」を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
4	アメリカの民主主義：世界の民主主義国家をリードしてきたアメリカの「自由主義」、これを体現する政治制度を概略します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
5	アメリカの平等主義：世界の移民たちを引きつけてきた「平等主義」について、その内容と変遷を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
6	アメリカの競争主義：「みんなが違う」ことを前提とするアメリカの「競争主義」とはなにかについてお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
7	アメリカン・ドリーム：アメリカの人々を鼓舞し続けてきた「アメリカン・ドリーム」について、歴史的経緯と内実を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
8	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：テストの復習		テスト、フィードバック	
9	宗教とアメリカ人の生活：社会と政治に影響を及ぼし続けるアメリカの宗教について、キリスト教を含めた宗教を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
10	アメリカの映像文化・メディア：20世紀以降大衆メディアであるハリウッド映画、そしてテレビについてお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
11	アメリカのスポーツ身体文化：アメリカの四大スポーツ、スポーツにおける人種と女性、ビジネスについてお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
12	アメリカン・ヒーロー：熱狂的に崇拝される「ヒーロー」像とはどのようなものか、を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
13	異文化社会アメリカ：「多様の中の統一」のための、アメリカの理念の整理と、その相互関連性をお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
14	アメリカ文化と日本：日本は「アメリカ」をどのようにとらえてきたのか、「アメリカ観」の歴史と変遷をお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
教本： 特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。					参考文献： 授業ごとに配布物を配り、それに従って授業を進めます。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： アメリカという国について、日本でも多くの情報を得られるがゆえに、実はそこには思い込みや誤解なども生じやすい国でもあります。アメリカについての断片的な情報を、その歴史と文化を学ぶことによって整理する手助けになると考えます。関心があれば受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	安 全 ・ 安 心 の 会 社 法 及 び 関 連 法 (Corporation Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	藤 原 俊 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他	私 法 学 を 併 せ て 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い。							
授 業 概 要 :									
現 代 社 会 で は 非 常 に 重 要 な 存 在 で あ る 株 式 会 社 の 法 的 構 造 に つ い て 、 そ の 不 祥 事 防 止 策 や リ ス ク 管 理 の 具 体 的 な 方 式 な ど を 含 め て 検 討 す る 。 以 下 の よ う に 講 義 形 式 で は あ り ま せ ん の で 、 主 体 的 な 授 業 参 加 が と く に 望 ま れ る 。									
授 業 目 標 :									
安 心 ・ 安 全 の 会 社 法 と い う 法 律 自 体 が あ る わ け で は な い 。 こ の 授 業 で は む し ろ 受 講 生 の 皆 さ ん と こ の 科 目 が 開 講 さ れ て い る 意 義 に つ い て と も に 考 え て い く こ と に な る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	株 式 会 社 と は ど の よ う な 団 体 か に つ い て 検 討 す る					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 90 分	
2	株 式 会 社 の 法 的 特 徴 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
3	株 式 会 社 の 設 立 の 流 れ を 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
4	株 式 制 度 の 多 様 性 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
5	株 主 総 会 の あ り 方 に つ い て 深 い 理 解 を 得 る た め に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
6	業 務 執 行 者 と し て の 取 締 役 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
7	業 務 執 行 機 関 と し て の 取 締 役 会 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
8	不 正 ・ リ ス ク 防 止 の た め の 内 部 統 制 シ ス テ ム に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
9	リ ス ク 管 理 体 制 の あ り 方 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
10	株 式 会 社 の チェ ッ ク 機 関 に つ い て 説 明 で き る よ う に 代 表 者 に 報 告 し て も ら う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
11	チェ ッ ク 機 関 と し て の 監 査 役 ・ 監 査 役 会 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
12	会 計 の プ ロ で あ る 会 計 監 査 人 監 査 に つ い て 説 明 で き る よ う に 代 表 者 に 報 告 し て も ら う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 報 告 30 分 、 ま と め 20 分	
13	株 式 会 社 の 資 金 調 達 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
14	新 株 ・ 新 株 予 約 権 の 発 行 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
15	組 織 再 編 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う					事 前 : ネ ッ ト で 調 べ る 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
と く に は な し 。 六 法 は 持 参 す る こ と 。					授 業 中 に 適 宜 、 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (デ ィ ス カ ッ シ ョ ン へ の 参 加 状 況 30 %) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10 %) 、 定 期 試 験 (60 %) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
上 に も 記 載 し た が 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン ・ 報 告 重 視 の 授 業 な の で そ の 点 を 承 知 の 上 で 出 席 す る こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	安 全 保 障 と リ ス ク (Security and Risks)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	国 際 関 係 論 I の 事 前 履 修 が 望 ま し い。							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>国際関係学の重要分野である安全保障に関し、リスクの観点がどのように取り入れられてきたかについて概説します。前半は、国際関係学での安全保障論の基本的な視点を学びます。次に、社会学の分野から生まれたリスク社会論について検証します。後半は、リスク評価の安全保障への当てはめとして、各安全保障のフィールド（拡大した安全保障）で、リスク論がどのような視点を提示しているかについて見ていきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①安全保障に関する伝統的な脅威論とリスク論の違いを理解する。 ②安全保障の諸分野でどのようなリスクが議論されているのかを知る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	国際関係学と安全保障：国際関係学と安全保障論の関係を理解します。安全保障とは何かについても触れます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
3	安全保障と脅威①：安全保障の要素である「脅威」について深く掘り下げてみます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
4	安全保障と脅威②：脅威を中心とした安全保障のモデルを概略していきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
5	リスク社会論①：現代社会におけるリスクとは何かについて紹介します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
6	リスク社会論②：リスクをどう管理するか。リスク・マネジメント論を概略します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
7	安全保障への当てはめ：安全保障へのリスク論の当てはめの状況と実例を紹介します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
8	ミニテスト：前半のまとめをします。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		テストと解説	
9	軍事的な安全保障とリスク：現代における軍事安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
10	国内政治要因とリスク：今日の国内政治でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
11	経済的な安全保障とリスク：今日の経済安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
12	環境の安全保障とリスク：今日の環境安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
13	社会的な安全保障(移民)とリスク：今日の移民問題でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
14	安全保障でのリスク論の限界：安全保障でのリスク論の限界について触れていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
15	安全保障とリスク：まとめ					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		ディスカッション	
教 本 :					参 考 文 献 :				
各回ハンドアウトを配ります。					適宜指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (25%)、定 期 試 験 (25%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : やや高度な議論になりますが、安全保障問題へ関心のある学生の参加を歓迎します。日本国内では他では学ぶことが難しい内容と思いますので、意欲のある皆さんは是非受講してみてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	イギリス文化研究 A (English Studies A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： イギリスの文化を文学・自然・風土・伝説などのテーマごとに考察し、異文化への理解を図る。またアイルランドの文化と比較することによって、イギリス文化を多面的に概観する。									
授業目標： 多様性に富んだイギリスの文化を、歴史的、社会的、文化的にさまざまな角度から学ぶことによって、異なる文化を考察し、受容する態度を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：シラバスを熟読する 事後：授業の復習をする		イギリスについての基本事項の解説	
2	Unit 1 United Kingdom and Ireland—How Different Are They?					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
3	Unit 2 United Kingdom and Ireland—Who Is the Most Patriotic?					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
4	Unit 3 United Kingdom and Ireland—King, Queen and Prince					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
5	Unit 4 British Cuisine—Eat Like Henry! Modern British Cuisine					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
6	Unit 5 England—Elizabethan Theatre: Shakespeare and Marlowe					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
7	Unit 6 England—Nursery Rhymes as History					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
8	Unit 1～Unit 6 Review					事前：Unit 1～6 の復習をする 事後：授業の復習をする		解説、Q&A	
9	Unit 7 England—Peter Rabbit and Lake District					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
10	Unit 8 England—Lake District and Willam Wordsworth					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
11	Unit 9 England—Cotswolds					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
12	Unit 10 England(London)—Youth Culture & Fashion					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
13	Unit 11 England—Multi-racial Society “Immigration”					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
14	Unit 12 England(London)—Bend It Like Beckham					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
15	Unit 7～Unit 12 Review					事前：Unit 7～12の復習 事後：授業の復習をする		解説、Q&A	
教本： Journey to Multi Cultural Great Britain and Ireland（三修社）					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	イギリス文化研究 B (English Studies B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : イギリスの文化を文学・自然・風土・伝説などのテーマごとに考察し、異文化への理解を図る。またアイルランドの文化と比較することによってイギリスの文化を多面的に概観する。									
授 業 目 標 : 多様性に富んだイギリスの文化を、歴史的、社会的、文化的にさまざまな角度から学ぶことによって、異なる文化を考察し、受容する態度を習得することを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 13 Scotland—Difference Between Highlander and Lowlander					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
2	Unit 14 Scotland—Kilt History					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
3	Unit 15 Scotland—The Scottish Independence Referendum and Football					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
4	Unit 16 Wales—How Has the Welsh Language Striven?					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
5	Unit 17 Wales—Welsh Music					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
6	Unit 18 Wales—Land of Legend and King Arthur					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
7	Unit 19 Country Cuisine—from Wales, Ireland and Scotland					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
8	Unit 13～Unit19 Review					事前：Unit 13～19を復習 事後：授業の復習をする		解説、Q & A	
9	Unit 20 Ireland—Land of Culture					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
10	Unit 21 Ireland—Fairy Tales					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
11	Unit 22 Ireland—Legendary Hero					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
12	Unit 23 Northern Ireland—Belfast Then and Now					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
13	Unit 24 Northern Ireland—“Bloody Sunday” and After					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
14	Unit 25 United Kingdom—EU Referendum Results Fallout Explained					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
15	Unit 20～Unit 25 Review					事前：Unit 20～25を復習 事後：授業の復習をする		解説、Q & A	
教 本 : Journey to Multi Cultural Britain and Ireland (三修社)					参 考 文 献 : 授業中に適宜資料を配布する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	異文化共生論 A (Intercultural Coexistence A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 幹 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
異文化共生論 A の授業では、私の台湾居住十六年の経験から得た実践的な異文化共生論も説明する。複雑な現象を簡単な言葉で論じるので、だれでも理解できる。日本の在留外国人数は約二百七十三万人 (うち、中国人約七十六万人、韓国人約四十五万人、台湾人約六万人、米国人約六万人) で、日本の婚姻十六組のうち、一組が国際結婚である。異文化をもつ外国人と共に生きていく異文化共生論を検討する。									
授 業 目 標 :									
(1)異文化共生論の基本的概念を説明できるようになることを目標とする。(2)多文化共生国家となっている日本の現状理解を目標とする。(3)外国人と共生する異文化共生論の考察を目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	異文化共生論の授業内容の説明をする。自己紹介をする。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：異文化共生論(多様性と同一性)の下読みをする。事後：異文化共生論(多様性と同一性)のポイントを書き。			講義説明 40分。口頭 Q&A 10分。アンケート 10分。自己紹介 30分。	
2	異文化共生理論(葛藤解決方略次元理論、異文化受容態度理論)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：異文化共生理論の下読みをする。事後：異文化共生理論のポイントを書き。			講義説明 20分。口頭 Q&A 60分。アンケート 10分。	
3	異文化共生論の基礎(文化相対主義、ナショナリズム)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：異文化共生論の基礎の下読みをする。事後：異文化共生論の基礎のポイントを書き。			講義説明 20分。口頭 Q&A 60分。アンケート 10分。	
4	異文化適応(カルチャーショック、逆カルチャーショック、適応曲線)の説明をする。				事前：異文化適応の下読みをする。事後：異文化適応のポイントを書き。			講義説明 60分。口頭 Q&A 20分。アンケート 10分。	
5	外国語・第二言語教育(外国語学習、日本語教育、日本語教師)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：外国語・第二言語教育の下読みをする。事後：外国語・第二言語教育のポイントを書き。			講義説明 60分。口頭 Q&A 20分。アンケート 10分。	
6	思想(儒教思想、仏教思想、神道思想、アニミズム、キリスト教)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：思想の下読みをする。事後：思想のポイントを書き。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。	
7	日本的コミュニケーション(言霊思想、ニューソート哲学、プラス思考)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：日本的コミュニケーションの下読みをする。事後：日本的コミュニケーションのポイントを書き。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。	
8	日本文化の価値観(和の思想、義理と人情、武士道)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：日本文化の価値観の下読みをする。事後：日本文化の価値観のポイントを書き。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。	
9	日本・東洋の思想(祖先崇拜、輪廻思想)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：日本・東洋の思想の下読みをする。事後：日本・東洋の思想のポイントを書き。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。	
10	国際的な人の移動(国際結婚、華僑と華人、国民国家と主権国家)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：国際的な人の移動の下読みをする。事後：国際的な人の移動のポイントを書き。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。	
11	日本の異文化交流史(儒教・仏教の受容、キリストの受容、西欧文明の受容)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：日本の異文化交流史の下読みをする。事後：日本の異文化交流史のポイントを書き。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。	
12	留学(交換留学、留学生 30 万人計画、留学生寮)の説明をする。口頭 Q&A をする。ディスカッションをする。				事前：留学の下読みをする。事後：留学のポイントを書き。			講義説明 20分。ディスカッション 60分。アンケート 10分。	
13	国際交流(国際交流イベント、国際教育交流、国際交流基金)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：国際交流の下読みをする。事後：国際交流のポイントを書き。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。	
14	移民政策(国家統合、多様性、国際比較)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：移民政策の下読みをする。事後：移民政策のポイントを書き。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。	
15	異文化共生論のまとめの説明をする。学生の発表を行う。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：異文化共生論のまとめの下読みをする。事後：異文化共生論のまとめのポイントを書き。			講義説明 70分。口頭 Q&A 10分。アンケート 10分。	
教 本 :									
プリントを配布する。									
参 考 文 献 :									
加賀美常美代(編著)、『多文化共生論——多様性理解のためのヒントとレッスン』、明石書店、2013年、¥2,640。									
松尾知明、『「移民時代」の多文化共生論——想像力・創造力を育む14のレッスン』、明石書店、2020年、¥2,420。									
多文化共生キーワード事典編集委員会編、『多文化共生キーワード事典 改訂版』、明石書店、2010年、¥2,200。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
第16回目の授業時の期末レポート(40%)、や授業態度などの平常点(60%)。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
1. 異文化コミュニケーション論の知識(頭脳の知性)向上、2. 自己効力感(私はできるというプラス思考)向上、3. 人間力(力強く生きていく力、目標達成力)向上。学生の皆さんの質問は歓迎する。学習理論の自己効力感(self-efficacy、セルフ・エフィカシー)で「できるという信念があれば、必ずできるようになる」。私伊藤幹彦は自己効力感で学生さんのやる気を引き出し、成績を高める。毎回学生の皆さんに A4 の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習						
授業科目(英文)	異文化共生論 B (Intercultural Coexistence B)						科目分類	専門科目							
担 当 教 員	伊藤 幹彦														
履 修 条 件	前提科目	なし													
	その他	なし													
<p>授業概要：異文化共生論 B の授業では、私の台湾居住十六年の経験から得た実践的な異文化共生論を説明する。私は専門が台湾の歴史と文化であるので、理論的な異文化共生論つまり台湾文化と儒教思想も説明する。私は心理学と文化人類学の文献も読み、長年多くの台湾人と親しくつきあっているので、台湾人の深層心理にある儒教思想も説明する。私は国立台湾大学で博士号を取得し、台湾の大学で十一年准教授として中国語と台湾語で台湾歴史などの科目を教えてきた。日本の在留台湾人数は約六万人で台湾の全人口は約二三〇〇万人で私は長年台湾人と共生してきた。異文化をもつ台湾人と共に生きていく（理論的な心理学と文化人類学を応用した）実践的な異文化共生論（台湾文化共生論）を説明する。</p> <p>授業目標：孔子の誕生以来、『論語』や『孟子』などを通して、約二五〇〇年間にわたって、中国の儒教思想は、家庭教育と学校教育と社会教育などを通じて、現在の台湾人や中国人の心に受け継がれているので、これらの東アジアの交流と文化（台湾の文化、台湾の儒教思想）の概念の習得を目標とする。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	◎
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
	○	◎													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態							
1	異文化としての台湾文化（台湾の儒教思想、台湾の仏教思想）の説明をする。自己紹介をする。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：台湾文化の下読みをする。 事後：台湾文化のポイントをノートに書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A 10分。アンケート 10分。自己紹介 30分。							
2	台湾の思想（台湾の輪廻思想、台湾の縁起思想）の説明をする。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明 20分。口頭 Q&A 60分。アンケート 10分。							
3	孔子の生涯（孔子の家族、孔子の幼少期、孔子の青年期、孔子の壮年期、孔子の晩年期）の説明をする。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：孔子の生涯の下読みをする。 事後：孔子の生涯のポイントをノートに書く。			講義説明 20分。口頭 Q&A 60分。アンケート 10分。							
4	孟子の生涯（孟子の家族、孟子の幼少期、孟子の青年期、孟子の壮年期、孟子の晩年期）の説明をする。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：孟子の生涯の下読みをする。 事後：孟子の生涯のポイントをノートに書く。			講義説明 20分。口頭 Q&A 60分。アンケート 10分。							
5	儒教道徳の三綱五常（君臣・父子・夫婦間の三つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。				事前：儒教道徳の三綱五常の下読みをする。 事後：儒教道徳の三綱五常のポイントをノートに書く。			講義説明 60分。口頭 Q&A 20分。アンケート 10分。							
6	儒教道徳の五倫五常（父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。				事前：儒教道徳の五倫五常の下読みをする。 事後：儒教道徳の五倫五常のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。							
7	『論語』(1) (『学（学びに対する態度）』) の説明をする。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：『論語』(1) の下読みをする。 事後：『論語』(1) のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。							
8	『論語』(2) (『孝（祖先や親を大切にすること）』) の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：『論語』(2) の下読みをする。 事後：『論語』(2) のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。							
9	『論語』(3) (『仁（他者を思いやる心）』) の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：『論語』(3) の下読みをする。 事後：『論語』(3) のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。							
10	『論語』(4) (『礼（個人の礼儀と祭祀の儀式）』) の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：『論語』(4) の下読みをする。 事後：『論語』(4) のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。							
11	『論語』(5) (『楽と詩（音楽と詩）』) の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：『論語』(5) の下読みをする。 事後：『論語』(5) のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。							
12	『論語』(6) (『君子（徳性と学問を兼ね備えた人）』) の説明をする。討論会（いかにして徳性と学問を兼ね備えた人になるか）をする。				事前：『論語』(6) の下読みをする。 事後：『論語』(6) のポイントをノートに書く。			講義説明 40分。ディスカッション 40分。アンケート 10分。							
13	『孟子』(1) (『義（正義・道義・大義）』) の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：『孟子』(1) の下読みをする。 事後：『孟子』(1) のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。							
14	『孟子』(2) (『仁・義・礼・智の四徳』) の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：『孟子』(2) の下読みをする。 事後：『孟子』(2) のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭 Q&A 10分。							
15	異文化としての台湾文化（台湾の儒教思想、台湾の仏教思想）のまとめの説明をする。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：台湾文化のまとめの準備をする。 事後：台湾文化のまとめのポイントをノートに書く。			講義説明 70分。口頭 Q&A 10分。アンケート 10分。							
教本： プリントを配布する。		参考文献： 江連隆、『論語と孔子の事典』、大修館書店、1996年、¥5,720。 内野熊一郎（訳）、『孟子』、明治書院、1962年、¥10,120。 津田左右吉、『儒教の研究』第1～3巻（津田左右吉全集第16～18巻）、岩波書店、1988年、¥12,540。													
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時しめきりの期末レポート（40%）、授業への寄与度や授業態度などの平常点（60%）。															
<p>学生へのアドバイス： 儒教思想の授業を通じて、君の徳性を高め、儒教思想の知識を実践に生かし、君の人間関係をよくしてください。1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。台湾は親日的で、台湾人は非常に人情味があり、日本人と台湾人の習慣の類似点は80%で、すべての在日外国人留学生の中で台湾人が日本人と最も似ており、台湾人は友好的であるので、学生の皆さんは台湾人とよい友達になれる。A4の紙を配り、アンケートとして質問、意見、感想を書いてもらう。儒教思想の目的は、人間関係をよくすることにあるから、儒教思想を応用すれば、君の人間関係をよくすることができる。</p>															
オフィスアワー：初回講義日に伝える。															

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	異文化コミュニケーション論 I (Intercultural Communication I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 幹 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
<p>授業概要：</p> <p>異文化コミュニケーション論 I の授業では、アメリカ人やヨーロッパ人や東南アジア人の異文化コミュニケーションの理論と実践に加えて、私伊藤幹彦の台湾居住十六年の実際の経験から得た台湾人・中国人との異文化コミュニケーションも説明する。この授業では、異なる文化をもつ人と接触した時、いかにすればスムーズなコミュニケーションが図れるのかを理論と実践の双方から考える。本授業で教師と学生の質問、学生同士の質問などのインターアクション（人と人との相互交流）、ディスカッションを行う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>(1)異文化コミュニケーション論の理論と実践の応用を目標とする。(2)異文化コミュニケーションの理解を目標とする。(3)異文化コミュニケーションの学問的知識の習得を目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	異文化コミュニケーション論の目次の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論のポイントをノートに書く。			講義説明 40分。口頭Q & A 10分。アンケート 10分。自己紹介 30分。		
2	異文化コミュニケーション理論（異文化コミュニケーション・モデル）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：異文化コミュニケーション理論の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション理論のポイントをノートに書く。			講義説明 20分。口頭Q & A 60分。アンケート 10分。		
3	異文化コミュニケーションの基礎（文化相対主義、ナショナリズム）の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：異文化コミュニケーションの基礎の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの基礎のポイントをノートに書く。			講義説明 20分。口頭Q & A 60分。アンケート 10分。		
4	異文化適応（カルチャーショック、逆カルチャーショック、適応曲線）の説明をする。			事前：異文化適応の下読みをする。 事後：異文化適応のポイントをノートに書く。			講義説明 20分。口頭Q & A 60分。アンケート 10分。		
5	外国語・第二言語教育（外国語学習、日本語教育、日本語教師）の説明をする。			事前：外国語・第二言語教育の下読みをする。 事後：外国語・第二言語教育のポイントをノートに書く。			講義説明 60分。口頭Q & A 20分。アンケート 10分。		
6	思想（儒教思想、仏教思想、神道思想、アニミズム、キリスト教）の説明をする。			事前：思想の下読みをする。 事後：思想のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭Q & A 10分。		
7	日本的コミュニケーション（言霊思想、ニューソート哲学、プラス思考）の説明をする。			事前：日本的コミュニケーションの下読みをする。 事後：日本的コミュニケーションのポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭Q & A 10分。		
8	日本文化の価値観（和の思想、義理と人情、武士道）の説明をする。			事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭Q & A 10分。		
9	日本・東洋の思想（祖先崇拜、輪廻思想）の説明をする。			事前：日本・東洋の思想の下読みをする。 事後：日本・東洋の思想のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭Q & A 10分。アンケート 10分。		
10	移住（国際結婚、華僑と華人、国民国家と主権国家）の説明をする。			事前：移住の下読みをする。 事後：移住のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭Q & A 10分。		
11	日本の異文化交流史（儒教・仏教の受容、キリストの受容、西欧文明の受容）の説明をする。			事前：日本の異文化交流史の下読みをする。 事後：日本の異文化交流史のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭Q & A 10分。		
12	留学（交換留学、留学生30万人計画、留学生寮）の説明をする。ディスカッションをする。			事前：留学の下読みをする。 事後：留学のポイントをノートに書く。			講義説明 20分。ディスカッション 60分。アンケート 10分。		
13	国際交流（国際交流イベント、国際教育交流、国際交流基金）の説明をする。			事前：国際交流の下読みをする。 事後：国際交流のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭Q & A 10分。		
14	多文化共生論（葛藤解決方略次元理論、異文化受容態度理論）の説明をする。			事前：多文化共生論の下読みをする。 事後：多文化共生論のポイントをノートに書く。			講義説明 80分。口頭Q & A 10分。		
15	異文化コミュニケーション論のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論のまとめの下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論のまとめのポイントをノートに書く。			講義説明 70分。口頭Q & A 10分。アンケート 10分。		
<p>教本：</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>参考文献：</p> <p>石井敏、久米昭元（編）、『異文化コミュニケーション事典』、春風社、2013年、¥7,600。 石井敏、久米昭元、遠山淳、松本茂、平井一弘、御堂岡潔、『異文化コミュニケーション・ハンドブッカー多基礎知識から応用・実践まで』、有斐閣、1997年、¥2,420。 石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築に向けて』、有斐閣、2013年、¥2,200。</p>									
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時しめきりの期末レポート（40%）、授業への寄与度や授業態度などの平常点（60%）。									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私伊藤幹彦が、自己効力理論で授業を行い、学生は主体的に学習し、実力がつく。1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。学生の皆さんの質問は歓迎する。頭脳の知性（異文化コミュニケーション論の専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。</p>									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習																																																																						
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論Ⅱ (Intercultural Communication Ⅱ)						科目分類	専門科目																																																																							
担 当 教 員	伊藤 幹彦																																																																														
履 修 条 件	前提科目	なし																																																																													
	その他	なし																																																																													
<p>授業概要：異文化コミュニケーション論Ⅱの授業では、私の台湾居住十六年の経験から得た実践的な異文化コミュニケーション論つまり中国文化と中国の儒教思想を説明する。私は専門が台湾の歴史と文化であり、台湾人の心の中にある儒教思想も説明する。私は長年多くの台湾人と親しくつきあい続けているので、理論面と実践面の両面から台湾人の深層心理も説明する。私は国立台湾大学で博士号を取得し、台湾の大学で十一年准教授として中国語と台湾語で台湾歴史などの科目を台湾人学生と中国人学生に教えてきた。台湾人とコミュニケーションする際の（理論的には心理学と文化人類学を応用した）異文化コミュニケーション論（台湾文化コミュニケーション論）を説明する。</p> <p>授業目標：孔子の誕生以来、『論語』や『孟子』などを通して、約二五〇〇年間にわたって、中国の儒教思想は、家庭教育と学校教育と社会教育などを通じて、現在の台湾人や中国人や日本人の心に受け継がれているので、これらの異文化コミュニケーション論（中国文化と中国の儒教思想）の概念の習得を目標とする。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1" style="width:100%;"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>異文化としての中国文化（中国の儒教思想、中国の仏教思想）の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。</td> <td>事前：中国文化の下読みをする。 事後：中国文化のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 40分。口頭Q&A 10分。アンケート 10分。自己紹介 30分。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中国の思想（中国の輪廻思想、中国の縁起思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。</td> <td>事前：中国の思想の下読みをする。 事後：中国の思想のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 20分。口頭Q&A 60分。アンケート 10分。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>孔子の生涯（孔子の家族、孔子の幼少期、孔子の青年期、孔子の壮年期、孔子の晩年期）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。</td> <td>事前：孔子の生涯の下読みをする。 事後：孔子の生涯のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 20分。口頭Q&A 60分。アンケート 10分。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>孟子の生涯（孟子の家族、孟子の幼少期、孟子の青年期、孟子の壮年期、孟子の晩年期）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。</td> <td>事前：孟子の生涯の下読みをする。 事後：孟子の生涯のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 20分。口頭Q&A 60分。アンケート 10分。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>儒教道徳の三綱五常（君臣・父子・夫婦間の三つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。</td> <td>事前：儒教道徳の三綱五常の下読みをする。 事後：儒教道徳の三綱五常のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明60分。口頭Q&A 20分。アンケート 10分。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>儒教道徳の五倫五常（父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。</td> <td>事前：儒教道徳の五倫五常の下読みをする。 事後：儒教道徳の五倫五常のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 80分。口頭Q&A 10分。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>『論語』(1)（言葉と行動）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。</td> <td>事前：『論語』(1)の下読みをする。 事後：『論語』(1)のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 80分。口頭Q&A 10分。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>『論語』(2)（過失と反省）の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：『論語』(2)の下読みをする。 事後：『論語』(2)のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 80分。口頭Q&A 10分。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>『論語』(3)（富貴と貧賤）の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：『論語』(3)の下読みをする。 事後：『論語』(3)のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 80分。口頭Q&A 10分。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>『論語』(4)（就職の条件）の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：『論語』(4)の下読みをする。 事後：『論語』(4)のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 80分。口頭Q&A 10分。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>『論語』(5)（リーダー学）の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：『論語』(5)の下読みをする。 事後：『論語』(5)のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 80分。口頭Q&A 10分。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>『論語』(6)（上司と部下）の説明をする。討論会（いかにして徳性と学問を兼ね備えた人になるか）をする。</td> <td>事前：『論語』(6)の下読みをする。 事後：『論語』(6)のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 40分。ディスカッション 40分。アンケート 10分。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>『孟子』(1)（「義（正義・道義・大義）」の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：『孟子』(1)の下読みをする。 事後：『孟子』(1)のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 80分。口頭Q&A 10分。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>『孟子』(2)（仁・義・礼・智の四徳）の説明をする。口頭Q&Aをする。</td> <td>事前：『孟子』(2)の下読みをする。 事後：『孟子』(2)のポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 80分。口頭Q&A 10分。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>異文化としての中国文化（中国の儒教思想、中国の仏教思想）のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。</td> <td>事前：中国文化のまとめの準備をする。 事後：中国文化のまとめのポイントをノートに書く。</td> <td>講義説明 70分。口頭Q&A 10分。アンケート 10分。</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本： 参考文献： プリントを配布する。 溝口雄三、池田知久、丸山松幸(編)、『中国思想文化事典』、東京大学出版会、2001年、¥7,480。 井波律子(訳)、『完訳 論語』、岩波書店、2016年、¥3,080円。 宇野精一(訳)、『孟子 全訳注』、講談社、2019年、¥1,859円。</p> <p>成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時しめきりの期末レポート（40%）、授業への寄与度や授業態度などの平常点（60%）。</p> <p>学生へのアドバイス：儒教思想の授業を通じて、君の徳性を高め、儒教思想の知識を実践に生かし、君の人間関係をよくしてください。1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。台湾は親日的であり、台湾人は非常に人情味があり、日本人と台湾人の習慣の類似点は80%で、すべての外国人留学生の中で台湾人が日本人と最も似ており、台湾人は友好的であるので、学生の皆さんは台湾人とよい友達になれる。アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。儒教思想の目的は、人間関係をよくすることにあるから、儒教思想を応用すれば、君の人間関係をよくすることができる。</p> <p>オフィスアワー：初回講義日に伝える。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	◎	授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	異文化としての中国文化（中国の儒教思想、中国の仏教思想）の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：中国文化の下読みをする。 事後：中国文化のポイントをノートに書く。	講義説明 40分。口頭Q&A 10分。アンケート 10分。自己紹介 30分。	2	中国の思想（中国の輪廻思想、中国の縁起思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：中国の思想の下読みをする。 事後：中国の思想のポイントをノートに書く。	講義説明 20分。口頭Q&A 60分。アンケート 10分。	3	孔子の生涯（孔子の家族、孔子の幼少期、孔子の青年期、孔子の壮年期、孔子の晩年期）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：孔子の生涯の下読みをする。 事後：孔子の生涯のポイントをノートに書く。	講義説明 20分。口頭Q&A 60分。アンケート 10分。	4	孟子の生涯（孟子の家族、孟子の幼少期、孟子の青年期、孟子の壮年期、孟子の晩年期）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：孟子の生涯の下読みをする。 事後：孟子の生涯のポイントをノートに書く。	講義説明 20分。口頭Q&A 60分。アンケート 10分。	5	儒教道徳の三綱五常（君臣・父子・夫婦間の三つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。	事前：儒教道徳の三綱五常の下読みをする。 事後：儒教道徳の三綱五常のポイントをノートに書く。	講義説明60分。口頭Q&A 20分。アンケート 10分。	6	儒教道徳の五倫五常（父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。	事前：儒教道徳の五倫五常の下読みをする。 事後：儒教道徳の五倫五常のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。	7	『論語』(1)（言葉と行動）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：『論語』(1)の下読みをする。 事後：『論語』(1)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。	8	『論語』(2)（過失と反省）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『論語』(2)の下読みをする。 事後：『論語』(2)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。	9	『論語』(3)（富貴と貧賤）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『論語』(3)の下読みをする。 事後：『論語』(3)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。	10	『論語』(4)（就職の条件）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『論語』(4)の下読みをする。 事後：『論語』(4)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。	11	『論語』(5)（リーダー学）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『論語』(5)の下読みをする。 事後：『論語』(5)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。	12	『論語』(6)（上司と部下）の説明をする。討論会（いかにして徳性と学問を兼ね備えた人になるか）をする。	事前：『論語』(6)の下読みをする。 事後：『論語』(6)のポイントをノートに書く。	講義説明 40分。ディスカッション 40分。アンケート 10分。	13	『孟子』(1)（「義（正義・道義・大義）」の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『孟子』(1)の下読みをする。 事後：『孟子』(1)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。	14	『孟子』(2)（仁・義・礼・智の四徳）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『孟子』(2)の下読みをする。 事後：『孟子』(2)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。	15	異文化としての中国文化（中国の儒教思想、中国の仏教思想）のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：中国文化のまとめの準備をする。 事後：中国文化のまとめのポイントをノートに書く。	講義説明 70分。口頭Q&A 10分。アンケート 10分。
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																													
	○	◎																																																																													
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																												
1	異文化としての中国文化（中国の儒教思想、中国の仏教思想）の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：中国文化の下読みをする。 事後：中国文化のポイントをノートに書く。	講義説明 40分。口頭Q&A 10分。アンケート 10分。自己紹介 30分。																																																																												
2	中国の思想（中国の輪廻思想、中国の縁起思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：中国の思想の下読みをする。 事後：中国の思想のポイントをノートに書く。	講義説明 20分。口頭Q&A 60分。アンケート 10分。																																																																												
3	孔子の生涯（孔子の家族、孔子の幼少期、孔子の青年期、孔子の壮年期、孔子の晩年期）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：孔子の生涯の下読みをする。 事後：孔子の生涯のポイントをノートに書く。	講義説明 20分。口頭Q&A 60分。アンケート 10分。																																																																												
4	孟子の生涯（孟子の家族、孟子の幼少期、孟子の青年期、孟子の壮年期、孟子の晩年期）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：孟子の生涯の下読みをする。 事後：孟子の生涯のポイントをノートに書く。	講義説明 20分。口頭Q&A 60分。アンケート 10分。																																																																												
5	儒教道徳の三綱五常（君臣・父子・夫婦間の三つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。	事前：儒教道徳の三綱五常の下読みをする。 事後：儒教道徳の三綱五常のポイントをノートに書く。	講義説明60分。口頭Q&A 20分。アンケート 10分。																																																																												
6	儒教道徳の五倫五常（父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。	事前：儒教道徳の五倫五常の下読みをする。 事後：儒教道徳の五倫五常のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。																																																																												
7	『論語』(1)（言葉と行動）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：『論語』(1)の下読みをする。 事後：『論語』(1)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。																																																																												
8	『論語』(2)（過失と反省）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『論語』(2)の下読みをする。 事後：『論語』(2)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。																																																																												
9	『論語』(3)（富貴と貧賤）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『論語』(3)の下読みをする。 事後：『論語』(3)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。																																																																												
10	『論語』(4)（就職の条件）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『論語』(4)の下読みをする。 事後：『論語』(4)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。																																																																												
11	『論語』(5)（リーダー学）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『論語』(5)の下読みをする。 事後：『論語』(5)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。																																																																												
12	『論語』(6)（上司と部下）の説明をする。討論会（いかにして徳性と学問を兼ね備えた人になるか）をする。	事前：『論語』(6)の下読みをする。 事後：『論語』(6)のポイントをノートに書く。	講義説明 40分。ディスカッション 40分。アンケート 10分。																																																																												
13	『孟子』(1)（「義（正義・道義・大義）」の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『孟子』(1)の下読みをする。 事後：『孟子』(1)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。																																																																												
14	『孟子』(2)（仁・義・礼・智の四徳）の説明をする。口頭Q&Aをする。	事前：『孟子』(2)の下読みをする。 事後：『孟子』(2)のポイントをノートに書く。	講義説明 80分。口頭Q&A 10分。																																																																												
15	異文化としての中国文化（中国の儒教思想、中国の仏教思想）のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：中国文化のまとめの準備をする。 事後：中国文化のまとめのポイントをノートに書く。	講義説明 70分。口頭Q&A 10分。アンケート 10分。																																																																												

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	異文化論 A (Cross Culture Theory A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	高 校 レ ベ ル の 日 本 史 ・ 世 界 史 の 知 識 。 G o o g l e C l a s s r o o m 利 用 。							
授 業 概 要 : 異文化とは外国の文化だけを指すわけではありません。日本社会を対象に異文化の視点について学びます。毎回のリアクションペーパー、小テストで理解度を確認します。									
授 業 目 標 : 1. 異文化の視点で自文化を捉えることができる。 2. 異文化の視点を日常生活、具体的な実践に応用できる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	人類の誕生、進化、移動の歴史について学ぶ。「人種」概念の社会的構築性から、外見に関する思い込みを話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
2	日本の在留外国人について学ぶ。神奈川県、厚木市についてグループワークする。					事前：高校日本史を振り返る 事後：復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
3	世界の「先住民族」をめぐる動きを概観する。「神々のうた 大地にふたたび」を視聴し、先住民アイヌの人々について学ぶ。					事前：記事、ニュース収集 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
4	「クリスマス」はどのような経緯で世界に拡散したのか学ぶ。					事前：クリスマス経験 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
5	イスラームへの関心が高まっている。「ハラール」(許されていること、もの)に関しディスカッションを行う。					事前：宗教のイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
6	日本はある人にとっては異文化である。捕鯨文化を例に、異文化としての日本について学び、ディスカッションをする。					事前：食のイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
7	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、テスト 30分	
8	厚木市八菅地区は山伏の里で名高い。山伏に関する厚木市の言い伝えを学び、厚木の異文化に触れる。					事前：厚木のイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
9	松蔭大学付近の小野地区には小野小町伝承が伝えられている。小町をめぐる地元住民と松蔭大学生の活動について学ぶ。					事前：小野小町のイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
10	聴覚障害があることを手話という外国語でコミュニケーションする人々と捉える。視点としての異文化の意義を学ぶ。					事前：バリアフリー経験 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
11	視覚障害があることを、「見る文化」とは異なる「触る文化」の人々と捉える。視点としての異文化の意義を学ぶ、					事前：バリアフリー経験 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
12	タトゥーについて異文化の視点から分析する意義について学ぶ。					事前：タトゥーのイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
13	美容整形を切り口に日本社会と韓国社会について比較検討する。					事前：美容整形のイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
14	まとめ					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、質疑応答 30分	
15	映像：『替女（ごぜ：女性の盲人芸能者）さんの唱が聞こえる』視聴し、ディスカッションを行う。					事前：音楽経験 事後：ワークシート記入		視聴 60分、ディスカッション 30分	
教 本 : なし。					参 考 文 献 : そのつと紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 文 献 や 各 種 情 報 を 批 判 的 に 読 み 解 く 力 を つ け、自 ら の 思 考 を 展 開 で き る ト レ ー ニ ン グ を し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	異文化論B (Cross Culture Theory B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他	高 校 レ ベ ル の 地 理 、 世 界 史 の 知 識 。 G o o g l e C l a s s r o o m 利 用 。							
授 業 概 要 :									
<p>本授業は、異文化理解に必要な視点、概念、理論について学ぶ。人類史における異なる集団の出会い、描かれ方、関わり方を、世界史の流れの中で理解していく。理解度については、毎回のリアクションペーパー、小テストで確認をする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 異文化を理解に必要な視点、概念、理論を理解する。 2. 異文化の視点を、身の周りの具体的な現象の解釈に応用できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1・2	人類の誕生、進化、移動の歴史について学ぶ。「人種」概念の社会的構築性から、外見に関する思い込みを話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：観察		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
3	文明の交差点としてのオリент(東洋)について学び、現在メディアで報道されるイメージとの違いを理解する。					事前：高校地理を振り返る 事後：観察		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
4	オリентで、今日につながる学問が発展した経緯について学ぶ。					事前：高校地理を振り返る 事後：観察		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
5	「アラビアンナイト」の形成について学ぶ。各自のイメージを話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：アラビアンナイト読解		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
6	大航海時代から帝国主義時代にかけて、世界がどのように動いていったのかを学び、アラビアンナイトの展開と突き合わせる					事前：高校世界史を振り返る 事後：アラビアンナイト読解		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
7	エドワード・サイードの「オリエンタリズム」批判の論点を学ぶ。					事前：高校世界史を振り返る 事後：観察		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
8	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義60分、テスト30分	
9	ヴェールの着用、ひげを例に、身体の文化的側面、衣装の記号論について学ぶ。					事前：高校世界史を振り返る 事後：復習		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
10	日本と世界との関わりについて概観した後、「ジャポニズム」について学ぶ。					事前：メディア情報収集 事後：復習		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
11	身体の使い方、あり方の文化的多様性を、「身体技法」、「プロクセミックス」、「身体加工」から学ぶ。エクササイズも行う。					事前：身体のクセ 事後：観察		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
12	グローバリズム、グローカリズムという視点について学ぶ。身近な商品やサービスについてグループワークを行う。					事前：メディア情報収集 事後：復習		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
13	日本研究について学ぶ(『菊と刀』、『タテ社会の人間関係』他)					事前：メディア情報収集 事後：復習		講義60分、質疑応答10分、記述20分	
14	まとめ					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義60分、質疑応答30分	
15	映像：『大航海』を視聴し、ディスカッションを行う。					事前：メディア情報収集 事後：ワークシート記入		視聴60分、ディスカッション30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし					そのつど紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (20 %) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30 %) 、 定 期 試 験 (50 %) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
文 献 や 各 種 情 報 を 批 判 的 に 読 み 解 け 力 を つ け 、 自 ら の 思 考 を 展 開 で き る ト レ ー ニ ン グ を し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
紹 介 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	インターンシップ (Internship)						科 目 分 類	基礎科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>実習先の受け入れ人数に合わせて、履修人数を制限することがある。授業で、企業での業務実施の前に必要な知識やマナー、企業研究ならびに提出書類の書き方を習得する。就職活動と同じように自分の希望する業種や企業選びなどをインターネットを活用して行う。習得後、夏休みに原則として2～4週間企業で業務する。</p> <p>初回時にインターンシップの意義を理解しているか、企業実習の心構えができていないかの確認を行う。その結果によっては履修を認めないこともある。最近のインターンシップ実習先</p> <p>実習先として、大磯プリンスホテル、軽井沢プリンスホテル、ザ・プリンス箱根等、プリンスホテルを予定している。プリンスホテル以外での実習先は各自で見つけることが原則である。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>初回の授業で社会人になるために必要なことを学び、夏休み期間中にインターンシップを実施する。実体験することにより、目標を持つことの大切さ、それを達成するための過程、確認と検証、新たな目標の作成を学び、就職活動に役立てる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態		
1	インターンシップ履修オリエンテーション（ガイダンス）				事前： 事後：配布資料の見直し		〈講義 20分＋ノートを取りながら振り返り 10分）を3回、講義は、写真や動画を盛り込んで進める。		
2	インターンシップ実施要綱 インターンシップの意義を理解する				事前：前回の配布資料を見る 事後：今回の配布資料を見直す		〈講義 20分＋ノートを取りながら振り返り 10分）を3回、講義は、写真や動画を盛り込んで進める。		
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15	成果報告会				事前：研修報告書を仕上げる 事後：報告会の反省をする		報告会のリハーサルをしたのち、報告会を実施する。互いに質問し合うように進める。		
<p>教本： 初回に資料を配布する。「インターンシップのしおり」「インターンシップ賠償責任保険」の加入¥216（変更の可能性あり）</p> <p>参考文献： なし</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 実習（80%）、事前・事後の活動（20%）で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 1 回目に必ず出席すること。プレ社会人としてのモラルを求める。 初回時にインターンシップの意義を理解しているか、企業実習の心構えができていないかの確認を行う。その結果によっては、履修を認めないこともある。 初回に出席しない場合は実習に参加できないこともある。 インターンシップは大学と企業の信頼関係のうえで実施される。遅刻や無断欠勤は社会人として許されない。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	AI 実 践 プ ロ グ ラ ミ ン グ (Practical AI Programming)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に ない。							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と。							
授 業 概 要 :									
この授業では、人工知能 (AI: Artificial Intelligence) の歴史的背景を踏まえ、近年、AI プログラミングの開発で最も広く使用されている Python 言語の基礎知識を学び、AI で代表される機械学習モデルの構築手法を習得します。また、実践的なプログラミングの体験を通して、プログラミングの思考力の向上を目指します。									
授 業 目 標 :									
① AI (人工知能) と機械学習の種類について説明できる。 ② Python を用いて基本的なアルゴリズムのプログラミングができる。 ③ 機械学習の仕組みを理解し、問題解決のためのプログラミングができる。 ④ プログラムで、データベースを操作することができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	授 業 の 概 要 と 目 的、 進 め 方、 評 価 方 法 等 に つ い て 説 明 す る。 AI (人工知能) と機械学習、機械学習の種類について学ぶ。				事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー			ア イ ス プ レ イ ク (10 分) 講 義 (80 分)	
2	Python と は ど ん な 言 語 か、 Python の 開 発 環 境 を 構 築 す る。 サ ン プ ル プ ロ グ ラ ム を 作 成 し、 実 行 す る。				事 前 : Python と 開 発 環 境 に つ い て 下 調 べ 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー			講 義 (45 分) 演 習 (45 分)	
3	Python の 基 礎 (1) 変 数 と デ ー タ 型 に つ い て 学 ぶ。				事 前 : Chapter 3 を 読 む 事 後 : 演 習 問 題			講 義 (45 分) 演 習 (45 分)	
4	Python の 基 礎 (2) コ レ ク シ ョ ン に つ い て 学 ぶ。				事 前 : Chapter 4 を 読 む 事 後 : 演 習 問 題			講 義 (45 分) 演 習 (45 分)	
5	Python の 基 礎 (3) 条 件 分 岐 / 繰 り 返 し に つ い て 学 ぶ。				事 前 : Chapter 5 を 読 む 事 後 : 演 習 問 題			講 義 (45 分) 演 習 (45 分)	
6	Python の 基 礎 (4) 関 数 に つ い て 学 ぶ。				事 前 : Chapter 6 を 読 む 事 後 : 演 習 問 題			講 義 (45 分) 演 習 (45 分)	
7	Python の 基 礎 (5) オ ブ ジ ェ ク ト に つ い て 学 ぶ。				事 前 : Chapter 7 を 読 む 事 後 : 演 習 問 題			講 義 (45 分) 演 習 (45 分)	
8	Python の 基 礎 (6) モ ジ ュ ー ル と パ ッ ケ ー ジ に つ い て 学 ぶ。				事 前 : Chapter 10 を 読 む 事 後 : 演 習 問 題			講 義 ・ 演 習 (60 分) 小 テ ス ト (30 分)	
9	Python の 基 礎 (7) フ ァ イ ル の 読 み 書 き に つ い て 学 ぶ。				事 前 : Chapter 11 を 読 む 事 後 : 演 習 問 題			講 義 (45 分) 演 習 (45 分)	
10	Python による機械学習(1)機械学習の準備・手順について学ぶ。				事 前 : Chapter 13 の 1 を 読 む 事 後 : 期 末 課 題			講 義 (45 分) 演 習 (45 分)	
11	Python による機械学習(2)教師あり学習について学ぶ。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 期 末 課 題			講 義 (30 分) 演 習 (60 分)	
12	Python による機械学習(3)教師なし学習について学ぶ。				事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 期 末 課 題			講 義 (30 分) 演 習 (60 分)	
13	Python による機械学習(4)データベースの操作について学ぶ。				事 前 : Chapter 15 の 1 を 読 む 事 後 : 期 末 課 題			講 義 (30 分) 演 習 (60 分)	
14	Python による機械学習(5)Webプログラミングについて学ぶ。				事 前 : Chapter 15 の 2 を 読 む 事 後 : 期 末 課 題 を 完 成 さ せ、 期 限 ま で に 提 出 す る			講 義 (30 分) 演 習 (60 分)	
15	まとめと学びの振り返りを行う。 注目されている AI の 技 術 に つ い て ト ピ ッ ク を 紹 介 す る。				事 前 : 学 習 ポ ー ト フ ォ リ を 整 理 す る 事 後 : 学 び の 振 り 返 り を 行 う			講 義 (60 分) グ ル ー プ ワ ー ク (30 分)	
教 本 :						参 考 文 献 :			
松 浦 健 一 郎 ・ 司 ゆ き 『 Python [完 全] 入 門 』 SB ク リ エ イ テ ィ ブ ISBN : 978-4-815607647						授 業 内 で 参 考 文 献、 Web サ イ ト 等 を 紹 介 す る。			
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 :									
学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ (ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー、 演 習 問 題、 振 り 返 り 等) : 60%、 小 テ ス ト : 10%、 期 末 課 題 : 30% で 総 合 評 価 す る。 ※ 学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ は、 ル ー ブ リ ッ ク (評 価 基 準) に よ る 自 己 評 価 を 含 む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
プ ロ グ ラ ミ ン グ 上 達 の コ ッ ツ は、 完 成 を 期 待 し て バ グ を 見 つ け、 バ グ を 修 正 す る こ と (対 話) を 楽 し む こ と で す。 相 手 は コ ン プ ュ ー タ な の で す か ら、 コ ン プ ュ ー タ が 理 解 し て 正 し く 動 作 す る プ ロ グ ラ ム を 書 く こ と を 心 が け ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	AIとビジネスモデル (AI and Business Model)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、ビジネスにおいて収益を上げる仕組みは、インターネット、モバイル環境などのICT、ビッグデータ、AIなどの技術の進化により、多様化、変化が加速している。本講義では、AIを中心とした最新の技術動向の概要を学ぶとともに、ビジネスの構造と収益を向上させる仕組みの観点から、ビジネスを分析する基礎技術とその活用法を学ぶ。									
授業目標： AIを中心とした技術の進化がビジネスに与える影響を考慮して、ビジネスの構造を理解し、収益を向上させる仕組みの作り方を理解することを目的とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ビジネスモデル理解の準備Ⅰ シラバスの説明とロジカルシンキング					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	ビジネスモデル理解の準備Ⅱ ビジネス分析のためのフレームワーク					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
3	ビジネスに影響を与える技術動向Ⅰ ICT、DX（デジタルトランスフォーメーション）					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
4	ビジネスに影響を与える技術動向Ⅱ ビッグデータ、AI					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
5	ビジネスモデルとは					事前：教科書の指定ページを読む 事後：講義内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
6	ビジネスモデル分析の基礎 戦略モデルキャンパス					事前：教科書の指定ページを読む 事後：講義内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
7	戦略モデル					事前：教科書の指定ページを読む 事後：講義内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
8	オペレーションモデル					事前：教科書の指定ページを読む 事後：講義内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
9	収益モデル					事前：教科書の指定ページを読む 事後：講義内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
10	コンテキスト					事前：教科書の指定ページを読む 事後：講義内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
11	ビジネスモデルの作り方					事前：教科書の指定ページを読む 事後：講義内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
12	事例研究Ⅰ					事前：事例対象を調査する 事後：研究結果と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
13	事例研究Ⅱ					事前：事例対象を調査する 事後：研究結果と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
14	事例研究Ⅲ					事前：事例対象を調査する 事後：研究結果と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
15	今後のパラダイムシフト					事前：課題を事前調査する 事後：講義内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
教本： この一冊で全部わかる ビジネスモデル 基本・成功パターン・作り方が一気に学べる、¥1,760 参考文献： 講義内で指示する									
成績評価の方法、評価基準： レポート課題・プレゼンテーション等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。挨拶から始め、身の回りの物や国籍、数字、色などの英語の基本表現力を身につけます。									
授業目標： ①英語での簡単な挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で使われる最低限必要な英文法を理解する③英語で質問された際に自信を持って対応ができる。 ④単語と定型表現の学習により、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 1: New friends (自己紹介や初対面時の挨拶、会話の中での be 動詞の使い方)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：挨拶表現の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
2	Unit 1: New friends (仕事や都市名について話す、Yes と No で答える質問文及び応答文)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：職業の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
3	Unit 2: People and places (国籍や出身地について話す、場所を尋ねる疑問文の会話)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：国名の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
4	Unit 2: People and places (電話番号を正しく伝える、電話番号やメールアドレスを尋ねる表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：数字の発音を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
5	Unit 2: People and places (家族と数字の説明、Who～や How old～を使った疑問文の会話)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：家族の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
6	Unit 3: What's that? (身近な物について話す、a と an の使い分け、複数形を使った会話)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：身近な物の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
7	Unit 3: What's that? (服装や色について話す、所有代名詞を使った会話) グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：服装や色の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
8	Unit 4: Daily life (電車、バスなど移動手段について話す、時間について尋ねる会話)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所と時の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
9	Unit 4: Daily life (毎日のスケジュールについて話す Yes と No で答える質問文)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：予定の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
10	Unit 5: Free time (メールや音楽などの習慣について話す、頻度について話す表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
11	Unit 5: Free time (買い物時の表現について話す、値段を尋ねる表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：買い物時の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
12	Unit 5: Free time (自由時間の使い方について尋ねる、What, Who, When などを使った疑問文)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：定型質問文を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
13	Unit 6: Work and play (多様な職業名について話す、What などの疑問文に does を加えた表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：職業名の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
14	Unit 6: Work and play (できること、できないことについて話す、Can を使って能力について尋ねる)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：能力の表現を確認する		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
15	Unit 6: Work and play (できること、できないことについて話す、様々な職業について話す)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：仕事関連表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
教本： Four Corners 1 (Cambridge)					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本授業では、英語の基本となる読み書きを中心に、四技能全てについての幅広い能力を身につけることを目標とする。中でも英文を正確に読むということ、英語を書くことについての講義を行い、実際に授業内演習を行うことで、英語への見方を身につけてもらうことを目標とする。									
授業目標： 1. 受講生は、英語の読み書きの基本を身につけられるようになる。 2. 受講生は、英語を通して自分の考えを表現できるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：なし 事後：単語学習および復習		講義 90分	
2	語のつくりについて講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 90分	
3	語と発音記号について講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 90分	
4	語源(1) Old English について講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 90分	
5	語源(2) Middle English について講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 90分	
6	語源(3) Others について講義を行い、ディスカッションを行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分、 演習 45分	
7	例文の選び方について講義を行い、ディスカッションを行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分、 演習 45分	
8	例文と日本語訳の関係性についてについて講義を行い、ディスカッションを行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分、 演習 45分	
9	例文利用と文章作成(1)について講義を行い、ディスカッションを行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分、 演習 45分	
10	例文利用と文章作成(2)について講義を行い、ディスカッションを行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分、 演習 45分	
11	日本語添削を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分、 演習 45分	
12	英語添削を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分、 演習 45分	
13	比喩(直喩)について講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分、 演習 45分	
14	比喩(暗喩)について講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分、 演習 45分	
15	総まとめおよび質問受付					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分、 演習 45分	
教本： 『英検準 2 級 での順パス単』旺文社					参考文献： 適宜、指示を行います。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： ノートをしっかりと取ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	特になし							
授業概要： 中学・高校の基礎的英語を強化、補足します。文法の基礎、初歩リスニング、ライティングを通じて、総合的英語能力のアップを図ります。									
授業目標： 1. 英文法、語彙、リスニング、ライティングの基礎学力を向上させる。 2. 平易な英語を正確に読み取り、身近な事柄について表現できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション：授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介			事前：特になし 事後：授業の復習			講義・対話		
2	Unit 1 : Welcome to Japan			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
3	Unit 2 : That Sounds like Fun			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
4	Unit 3 : We Leave on Friday Morning			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
5	Unit 4 : You Know a Lot About Trains			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
6	Unit 5 : I Didn't Want to Leave			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
7	Unit 6 : You're Working Late			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
8	Unit 7 : I'm Sure He'll Understand			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
9	Unit 8 : I'll Remember That			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
10	Unit 9 : Hiro Forgot			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
11	Unit 10 : How Have you Been?			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
12	Unit 11 : While They're Here			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
13	Unit 12 : How Was Tennis?			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
14	Unit 13 : WhatDo you Mean?			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
15	Unit 14 : Well, What Are You Wating For?			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
教本： Robert Hickling 白倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ：基礎編』（金星堂、2020年）、¥1,900。									
参考文献： Robert Hickling 白倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ：基礎編』（金星堂、2020年）、¥1,900。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 授業では、中学・高校英語の基礎的能力を再確認し、復習します。高校で使用した英語文法書を片手に復習すれば、より正確に基礎を定着させることができます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 I (English I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	玉 川 明 日 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 様 々 な 英 語 の 資 料 を 通 じ て 状 況 に 応 じ た 表 現 を 学 習 し、英 語 に よ る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 力 を 伸 ば し ま す。文 法 や 語 彙 に つ い て、「何 故 そ の よ う な 規 則 や 意 味 を 持 つ の か」と い う 点 に 着 目 し て 理 解 を 深 め る こ と で、正 確 に 英 語 を 使 用 で き る よ う に し ま す。									
授 業 目 標 : コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン に 必 要 な 英 語 の 基 礎 表 現 を 理 解 し、状 況 に 応 じ た 表 現 を 選 択 し て 自 分 の 意 見 を 表 現 で き る よ う に な る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction : 授 業 内 容 と 注 意 事 項 の 確 認、ウ ォ ー ミ ン グ ア ッ プ と し て の ペ ア あ る い は グ ル ー プ ワ ー ク					事 前 : な し 事 後 : 次 回 の 授 業 の 予 習		説 明 30 分 演 習 60 分	
2	Unit 1 (1) : 初 対 面 の 人 と の 会 話 に お け る 挨拶 ・ 質 問 の 定 型 表 現 を 学 習 す る。 (文 法 : 英 文 の 基 礎 構 造 と し て の 「文 型」)					事 前 : 重 要 語 彙 の 意 味 調 べ 事 後 : 英 文 の 文 型 を 復 習 す る		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
3	Unit 1 (2) : 映 像 を 視 聴。数 量 や 位 置 を 説 明 す る 表 現 を 学 習 す る。 (文 法 : 品 詞 の 種 類 と 特 徴)					事 前 : 数 の 表 現 の 予 習 事 後 : 品 詞 と 連 語 関 係 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
4	Unit 2 (1) : 時 間 の 表 現 を 通 じ て 表 現 さ れ る 主 人 公 の 心 理 に つ い て、歌 の 内 容 を 読 解 す る。 (文 法 : 「現 在 形」の 「現 在」 と は)					事 前 : 重 要 語 彙 の 意 味 調 べ 事 後 : 時 制 と 時 系 列 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
5	Unit 2 (2) : 会 話 に お け る 謝 罪 や 理 由 を 説 明 す る た め の 定 型 表 現 を 学 習 す る。 (文 法 : 「過 去 形」を 通 じ て 学 ぶ 英 語 の 時 間 感 覚)					事 前 : 重 要 語 彙 の 意 味 調 べ 事 後 : 過 去 形 の 英 文 を 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
6	Unit 3 (1) : 映 像 を 視 聴。時 制 表 現 を 使 用 し た 歴 史 的 な 内 容 の 説 明 の 仕 方 を 学 ぶ。 (文 法 : 「現 在 進 行 形」 と 「現 在 形」の 違 い)					事 前 : 重 要 表 現 の 意 味 調 べ 事 後 : 進 行 形 の 英 文 を 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
7	Unit 3 (2) : 会 話 に お け る 予 定 や 進 捗 を 説 明 す る た め の 表 現 を 学 習 す る。 (文 法 : 時 系 列 上 で の 「現 在」「過 去」の 使 い 分 け)					事 前 : 重 要 語 彙 の 意 味 調 べ 事 後 : 「予 定」を 英 作 文 す る		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
8	授 業 内 復 習 小 テ ス ト の 実 施 (45 分) 文 法 事 項 の 復 習 と 解 説					事 前 : 小 テ ス ト 範 囲 の 復 習 事 後 : 復 習 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
9	Unit 4 (1) : イ デ ィ オ ム (慣 用 句) に つ い て 学 習 し、そ れ ら を 使 っ た 歌 の 内 容 を 理 解 す る。 (文 法 : 「未 来」の 表 現 と 使 い 分 け)					事 前 : 重 要 語 彙 の 意 味 調 べ 事 後 : 英 語 の 歌 の 特 徴 を 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
10	Unit 4 (2) : 会 話 に お け る 経 験 や 完 了 を 説 明 す る 表 現 を 学 ぶ。 (文 法 : 「完 了 形」 と そ の 他 の 時 制 と の 違 い に つ い て)					事 前 : 重 要 語 彙 の 意 味 調 べ 事 後 : 完 了 表 現 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
11	Unit 5 (1) : 会 話 に お け る 依 頼 の 定 型 表 現 や 丁 寧 表 現 を 学 習 す る。 (文 法 : 助 動 詞 の 種 類 と 特 徴 に つ い て)					事 前 : 重 要 語 彙 の 意 味 調 べ 事 後 : 助 動 詞 を 含 む 英 文 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
12	Unit 5 (2) : 資 格 試 験 の 問 題 を 通 じ て、質 問 と 応 答 の 定 型 と 出 題 傾 向 を 学 ぶ。 (文 法 : 助 動 詞 が 示 す 「予 測」の 度 合 い)					事 前 : 重 要 語 彙 の 意 味 調 べ 事 後 : 資 格 試 験 問 題 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
13	Unit 6 (1) : 電 話 口 頭 の 定 型 表 現 と、提 案 と 承 諾 の 表 現 を 学 習 す る。 (文 法 : 「過 去 分 詞」が 「受 動 態」を 形 作 る 理 由 と は)					事 前 : 重 要 語 彙 の 意 味 調 べ 事 後 : 受 け 身 表 現 の 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
14	Unit 6 (2) : 会 話 や 口 語 に お け る、自 分 の 心 境 を 付 加 す る 定 型 表 現 を 学 習 す る。 (文 法 : 「受 動 態」 と 「時 制」の 組 み 合 わ せ)					事 前 : 重 要 語 彙 の 意 味 調 べ 事 後 : 現 在 / 過 去 の 受 動 態 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
15	Review : 前 期 内 容 の 総 復 習 と し て、既 習 表 現 に 関 す る 英 作 文 を 含 む ア ク テ ィ ビ テ ィ を 行 う。					事 前 : 既 習 事 項 の 復 習 事 後 : 再 確 認 し た 学 習 事 項 を 復 習		講 義 : 45 分 演 習 : 45 分	
教 本 : Let's Read Aloud More! (成 美 堂)、プ リ ン ト 配 布					参 考 文 献 : な し。適 宜、授 業 中 に 紹 介 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」の 評 価 (50%)、並 び に 担 当 教 員 に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎 回 の 授 業 を 有 意 義 な も の に で き る よ う、積 極 的 に 参 加 し て く だ さ い。 ノ ー ト は 配 布 す る プ リ ン ト を 使 用 し て 構 い ま せ ン が、必 要 な 情 報 を 自 分 の 判 断 で ノ ー ト テ イ ク し、授 業 後 に 整 理 ・ 復 習 し ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>会話、文法、リーディングからなるテキストを使用します。英語の基礎的なスキルを学び直し、いわゆる学校文法の理解を確認する授業です。学生が英語を使う機会をできるだけ多くするために、ペア・ワーク、グループワーク、ゲームなども取り入れます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>英語コミュニケーションの基礎レベル、Common European Framework of Reference A1・A2に達することを目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 1 See You Soon 現在形と進行形					事前：p.12 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
2	Unit 2 Welcome to Japan! 数えられる名詞と数えられない名詞					事前：p.18 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
3	Unit 3 Sandy's First Sushi 代名詞の使い分け					事前：p.24 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
4	Unit 4 Festival fun 形容詞と副詞					事前：p.30 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
5	Unit 5 Play Ball! 場所の前置詞と時の前置詞					事前：p.36 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
6	Unit 6 Lucky Cats Yes / No 疑問文と Wh 疑問文					事前：p.42 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
7	Unit 7 No one Sings Like Brian 他動詞と自動詞					事前：p.48 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
8	Unit 8 Yui's Cooking Class 不定詞と動名詞					事前：p.54 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
9	Unit 9 Where's Sandy? 過去形と過去進行形と現在完了形					事前：p.60 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
10	Unit 10 Let's Take a Hike will と be going to					事前：p.66 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
11	Unit 11 Time for a Tour 助動詞の使い分け					事前：p.72 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
12	Unit 12 Photos from Hakone 比較級と最上級					事前：p.78 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
13	Unit 13 Sho's Barbecue Party 能動態と受動態					事前：p.84 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
14	Unit 14 On the Go 接続詞の使い分け					事前：p.90 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
15	Unit 15 Sandy's Farewell Dinner 関係詞の使い分け					事前：p.96 事後：writing		タスク実践 60分 演習 30分	
<p>教本：</p> <p><i>English Contrasts</i> R. Hickling 金星堂 ¥1,900（税別）</p>					<p>参考文献：</p> <p><i>How English Works</i> M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業毎に実施するタスクを平常点として評価の対象にしますので、授業を休まないようにしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅱ (English Ⅱ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>ネイティブ講師が担当し、各項目で必要な表現の説明を最小限に行い、使える表現の発話を繰り返すことで、生徒が能動的に英語での発話に参加できるように促します。食事や道案内などの会話表現及び過去形、進行形などの英語文法の基本表現を学びます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①英語での簡単な挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で使われる最低限必要な英文法を理解する③英語で質問された際に自信を持って対応ができる。④単語と定型表現の学習により、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 7: Food (食べ物とその量について話す、some と any 【可算名詞と不可算名詞】の使い分け)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 食べ物の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
2	Unit 7: Food (料理と頻度について話す、毎日、週 1 回などの頻度について話す)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 頻度の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
3	Unit 8: In the neighborhood (道案内の表現を覚える、会話の中での場所の前置詞の使い分け表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 場所の前置詞を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
4	Unit 8: In the neighborhood (観光施設の場所を尋ねる、Turn left/左に曲がる等の表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 道案内の表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
5	Unit 8: In the neighborhood (道案内の情報を尋ねる、There is/are を使った表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 場所や時刻の確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
6	Unit 9: What's are you doing? (動作表現の動詞を覚える、ing を使った現在進行形の表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 前置詞の使い方を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
7	Unit 9: What's are you doing? (興味のあることについての表現、疑問詞を使い現在進行形で尋ねる)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 近況表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
8	Unit 10: Past experiences (過去の出来事について話す、規則動詞の過去形を使った表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 過去形の表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
9	Unit 10: Past experiences (不規則動詞を使い出来事を説明する、不規則動詞の過去形を使った表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 不規則動詞の確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
10	Unit 11: Getting away (感情表現について話す、be 動詞の過去形を使った表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 感情表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
11	Unit 11: Getting away (ナチュラルに会話をつなげる、いいこと、悪いことについての表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 日常会話の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
12	Unit 11: Getting away (休暇時の表現について話す、Where などの質問文の過去形の表現)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 休暇時の表現を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
13	Unit 12: Time to celebrate (数詞と未来について話す、Be going to と Yes/No を使った文)、グループワーク。					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 数詞の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
14	Unit 12: Time to celebrate (パーティーの計画について話す、疑問文で現在進行形を使って話す)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 未来の表現を確認する		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
15	Unit 12: Time to celebrate (世界各国の誕生日について話す、祝いに関することを話す)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 祝いの表現を確認する		講義 40分、会話 30分、 ディスカッション 20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Four Corners 1 (Cambridge)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%) 並 び に 試 験 期 間 中 の 英 語 テ ス ト に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
英 語 で 話 す こ と に 自 信 を 持 て る よ う ネ イ テ ィ ブ 講 師 が 指 導 し ま す。積 極 的 に 英 語 で 話 す こ と を 繰 り 返 し て い け ば、や が て 英 語 に 慣 れ 親 し め る よ う に な り ま す。簡 単 な 表 現 で 伝 わ る 英 語 を 学 び ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	英語Ⅱ (English II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本授業では、英語の基本となる読み書きを中心に、四技能全てについての幅広い能力を身につけることを目標とする。 中でも英文を正確に読むということ、英語を書くことについての講義を行い、実際に授業内演習を行うことで、英語への見方を身につけてもらうことを目標とする。									
授業目標： 1. 受講生は、英語の読み書きの基本を身につけられるようになる。 2. 受講生は、英語を通して自分の考えを表現できるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：なし 事後：単語学習および復習		講義 90分	
2	語のつくりについて講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 90分	
3	語と発音記号について講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 90分	
4	語源(1) Old English について講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 90分	
5	語源(2) Middle English について講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 90分	
6	語源(3) Others について講義を行い、ディスカッションを行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分 演習 45分	
7	例文の選び方について講義を行い、ディスカッションを行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分 演習 45分	
8	例文と日本語訳の関係性について講義を行い、ディスカッションを行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分 演習 45分	
9	例文利用と文章作成(1)について講義を行い、ディスカッションを行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分 演習 45分	
10	例文利用と文章作成(2)について講義を行い、ディスカッションを行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分 演習 45分	
11	日本語添削を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分 演習 45分	
12	英語添削を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分 演習 45分	
13	比喩(直喩)について講義を行う。					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分 演習 45分	
14	比喩(暗喩)について講義を行う					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分 演習 45分	
15	総まとめおよび質問受付					事前：ノートをよく読む 事後：単語学習および復習		講義 45分 演習 45分	
教本： 『英検準2級 での順パス単』旺文社					参考文献： 適宜、指示を行います。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： ノートをしっかり取ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅱ (EnglishⅡ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	特になし							
授業概要： 時事英語を扱う教科書を使い、政治、経済、ビジネス、外交、軍事、海外情勢、テクノロジー、スポーツなどのテーマでニュース記事を読みます。英文記事を用いて、リスニング、グラマーチェック、日本語訳などを行います。ニュース記事を読むことによって、語彙力のアップにもつながります。									
授業目標： 1. ニュース英語にふれ、表現に慣れる。 2. 英文記事からさまざまなテーマを通じて世界の動向を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション：授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介			事前：特になし 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
2	Chapter 1：国内政治			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
3	Chapter 2：経済・ビジネス（1）			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
4	Chapter 3：経済・ビジネス（2）			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
5	Chapter 4：外交・国際会議			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
6	Chapter 5：軍事			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
7	Chapter 6：海外政治情勢			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
8	Chapter 7：文化・社会			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
9	Chapter 8：犯罪・事件			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
10	Chapter 9：裁判・法令			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
11	Chapter 10：地球環境			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
12	Chapter 11：気象・災害			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
13	Chapter 12：人口・労働問題			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
14	Chapter 13：テクノロジー			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
15	Chapter 14：スポーツ			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
教本： 堀江洋文、加藤香織他『時事英語の総合演習－2021版』 (朝日出版社、2021年)					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 日常的に、新聞やニュースに触れておくことをお勧めします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語Ⅱ (EnglishⅡ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	玉川 明日美									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>様々な英語の資料を通して状況に応じた表現を学習し、英語によるコミュニケーションの力を伸ばします。文法や語彙について、「何故そのような規則や意味を持つのか」という点に着目して理解を深めることで、正確に英語を使用できるようにします。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>コミュニケーションに必要な英語の基礎表現を理解し、状況に応じた表現を選択して自分の意見を表現できるようになる。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Introduction：授業内容と注意事項の確認、ウォーミングアップとして英作文・発表を含むアクティビティ					事前：なし 事後：次回の授業の予習		説明 30分 演習 60分		
2	Unit 7 (1)：順序だてて説明するための表現を学習する。(文法：不定詞の特徴から使い方を見極める)					事前：重要語彙の意味調べ 事後：英文の文型を復習する		講義：45分 演習：45分		
3	Unit 7 (2)：韻律が特徴的な英語の曲を聴き、歌詞が伝えるメッセージを読み解く。(文法：不定詞を含むイディオムの紹介)					事前：数の表現の予習 事後：品詞と連語関係の復習		講義：45分 演習：45分		
4	Unit 8 (1)：会話における相談を持ち掛ける／受ける時の表現を学ぶ。(文法：主格の関係代名詞の特徴と用法について)					事前：重要語彙の意味調べ 事後：時制と時系列の復習		講義：45分 演習：45分		
5	Unit 8 (2)：日本社会の紹介文を通して、英語の長文を読み進める際のポイントを学ぶ。(文法：関係代名詞の種類と用法)					事前：重要語彙の意味調べ 事後：過去形の英文を復習		講義：45分 演習：45分		
6	Unit 9 (1)：就職面接の会話における定型表現（質問と応答）を学習する。(文法：関係代名詞の種類と見分けるポイント)					事前：重要表現の意味調べ 事後：進行形の英文を復習		講義：45分 演習：45分		
7	授業内復習小テストの実施（45分） 文法事項の復習と解説					事前：重要語彙の意味調べ 事後：「予定」を英作文する		講義：45分 演習：45分		
8	Unit 10 (1)：様々な国籍をもつ人の英語でのプレゼンを視聴し多様性を学ぶ。(文法：動名詞の用法、語形と意味のつながり)					事前：小テスト範囲の復習 事後：復習レポートの作成		講義：45分 演習：45分		
9	Unit 10 (2)：社内会議での会話を通して、提案や検討についての表現を学習する。(文法：「分詞」とは何を表現する形か)					事前：重要語彙の意味調べ 事後：英語の歌の特徴を復習		講義：45分 演習：45分		
10	Unit 11 (1)：会話における案内や申し出の表現を学習する。(文法：文法：「分詞」を用いて修飾節を作る実践練習)					事前：重要語彙の意味調べ 事後：完了表現の復習		講義：45分 演習：45分		
11	Unit 11 (1)：短縮形や省略を含む歌詞をもつ楽曲を視聴し、口語表現の特徴を学ぶ。(文法：副詞節の種類と用法)					事前：重要語彙の意味調べ 事後：助動詞を含む英文復習		講義：45分 演習：45分		
12	Unit 12 (1)：製品紹介の英語プレゼンを通して、アピールのための表現を学ぶ。(文法：統・副詞節の種類と用法)					事前：重要語彙の意味調べ 事後：資格試験問題の復習		講義：45分 演習：45分		
13	Unit 12 (2)：資格試験の問題を通して、出題傾向や質問と応答の表現を学ぶ。(文法：複数の「節」をもつ英文の見極め方)					事前：重要語彙の意味調べ 事後：受け身表現の復習		講義：45分 演習：45分		
14	Unit 13 (1)：ニュース映像を視聴し、現代社会・文化における新しい語彙や口語表現を学ぶ。					事前：重要語彙の意味調べ 事後：現在／過去の受動態復習		講義：45分 演習：45分		
15	Review：後期内容の総復習として、既習表現に関する英作文を含むアクティビティを行う。					事前：既習事項の復習 事後：再確認した学習事項を復習		講義：45分 演習：45分		
<p>教本：</p> <p>Let's Read Aloud More! (成美堂)、プリント配布</p>					<p>参考文献：</p> <p>なし。適宜、授業中に紹介します。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。</p>										
<p>学生へのアドバイス：本講義単独での履修は可能だが、前期の「英語Ⅰ (EnglishⅠ)」を履修していることが望ましい。</p> <p>毎回の授業を有意義なものにできるよう、積極的に参加してください。</p> <p>ノートは配布するプリントを使用して構いませんが、必要な情報を自分の判断でノートテイクし、授業後に整理・復習しましょう。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅱ (English Ⅱ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
リスニングとリーディングを中心にして、筆者の体験に基づいて書かれたテキストを使用します。ペアワーク、グループワーク、ゲームなどを採り入れて、学生が楽しく英語を使う時間をできるだけ多くなるようにします。									
授 業 目 標 :									
英語コミュニケーションのCommon European Framework of Reference B1に到達することを目標とします。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Lesson 1 Physical Education Lesson 2 Sports Club					事前：Mini-column 事後：Composition		タスク実践 60分 演習 30分	
2	Lesson 3 Cultural differences Lesson 4 Haircuts					事前：Mini-column 事後：Composition		タスク実践 60分 演習 30分	
3	Lesson 5 Music Lesson 6 Money					事前：Mini-column 事後：Composition		タスク実践 60分 演習 30分	
4	Lesson 7 Safety Lesson 8 Life Expectancy					事前：Mini-column 事後：Composition		タスク実践 60分 演習 30分	
5	Review Lesson 1 – Lesson 8					事前：Mini-column 事後：Mini Test		タスク実践 60分 演習 30分	
6	Lesson 9 The Metric System Lesson 10 Police					事前：Mini-column 事後：Composition		タスク実践 60分 演習 30分	
7	Lesson 11 Seasons Lesson 12 TV Sports					事前：Mini-column 事後：Composition		タスク実践 60分 演習 30分	
8	Lesson 13 Business Lesson 14 Jobs					事前：Mini-column 事後：Composition		テスト 30分 発表 90分	
9	Lesson 15 NHK vs. PBS Lesson 16 Marriage Ceremonies					事前：Mini-column 事後：Composition		タスク実践 60分 演習 30分	
10	Review Lesson 9 – Lesson 16					事前：Mini-columns 事後：Mini Test		タスク実践 60分 演習 30分	
11	Lesson 17 American Culture Lesson 18 International Marriage					事前：Mini-column 事後：Composition		タスク実践 60分 演習 30分	
12	Lesson 19 Apartments Lesson 20 Technology					事前：Mini-column 事後：Composition		タスク実践 60分 演習 30分	
13	Lesson 21 School Rules Lesson 22 Drinking					事前：Mini-column 事後：Composition		タスク実践 60分 演習 30分	
14	Lesson 23 Entertaining Lesson 24 Choice					事前：Mini-columns 事後：Mini Test		タスク実践 60分 演習 30分	
15	Review Lesson 17 – Lesson 24					事前：Mini-columns 事後：Mini Test		タスク実践 60分 演習 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
<i>Eye on America and Japan</i> 南雲堂 ¥1,800 (税別)					<i>How English Works</i> M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%) 並びに試験期間中の英語テストによる評価 (50%) を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授業毎に実施するタスクを平常点として評価の対象にしますので、授業を休まないようにしてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。趣味、スポーツ、天気、体調、テレビ番組などについての英語応用表現力を身につけます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①英語での挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で必要な各種話題に、簡単な英語で対応できる会話力を身につける③相手に尋ねたり、質問に答えたりするなど、応用表現力を身につける。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 1: My interests (自己紹介や初対面時の挨拶、会話の中での be 動詞の使い方)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 挨拶表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
2	Unit 1: My interests (スポーツについて話す、会話の中での動詞の過去形の使い方)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: スポーツの語彙		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
3	Unit 2: Descriptions (人物描写、What...like?を使った会話)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 国名の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
4	Unit 2: Descriptions (分からないことを確かめる、質問に答える表現)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: he と she の発音		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
5	Unit 2: Descriptions (容姿の説明、What...look like?を使った会話)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 家族の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
6	Unit 3: Rain or shine (天気について話す、会話の中での副詞の使い方)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 身近な物の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
7	Unit 3: Rain or shine (室内でのアクティビティについて話す、Would you like to do?を使った会話)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 服装や色の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
8	Unit 4: Life at home (家の中の物について話す、How many/much...を使った会話)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 場所と時の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
9	Unit 4: Life at home (家の中での動作について話す、掃除などについて話す)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 予定の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
10	Unit 5: Health (身体について話す、動作について話す)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 頻度の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
11	Unit 5: Health (体調について話す、病院で体調を伝える会話)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 買い物時の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
12	Unit 5: Health (健康についての習慣について話す、How often...?を使った会話)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 定型質問文を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
13	Unit 6: What's on TV? (テレビ番組を説明する、hope to...、want to...などを使った会話)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 職業名の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
14	Unit 6: What's on TV? (テレビについて話す、会話の中での現在進行形の使い方)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: 能力の表現を確認する		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
15	Unit 6: What's on TV? (テレビ番組について話す、好きな番組を説明する)、グループワーク					事前: 語彙・発音を調べる 事後: TV 番組の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Four Corners 2 (Cambridge)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%) 並 び に 試 験 期 間 中 の 英 語 テ ス ト に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
英 語 で 話 す こ と に 自 信 を 持 て る よ う ネ イ テ ィ ブ 講 師 が 指 導 し ま す。積 極 的 に 英 語 で 話 す こ と を 繰 り 返 し て い け ば、や が て 英 語 に 慣 れ 親 し め る よ う に な り ま す。簡 単 な 表 現 で 伝 わ る 英 語 を 学 び ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>英語 I・II で学習した英語のさらなる向上を図ります。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニングの能力を習得するためのタスクを行います。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①語彙を増やし、リーディング力を強化します。 ②文法・語法を確認し、英文を書いたり、聴くことによってライティング・リスニング力を習得します。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方 と 評 価 方 法 に つ い て の 説 明 自 己 紹 介					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 授 業 の 復 習		解 説 30 分、writing 40 分、発 表 20 分	
2	Chapter 1 Laughter is a Miracle Medicine					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
3	Chapter 1 Laughter is a Miracle Medicine					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
4	Chapter 2 Florence Nightingale: Pionner of Modern Nursing					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
5	Chapter 2 Florence Nightingale: Pionner of Modern Nursing					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
6	Chapter 3 Pearls of Wisdom					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
7	Chapter 3 Pearls of Wisdom					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
8	Chapter 4 Love is Powerful					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
9	Chapter 4 Love is Powerful					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
10	Chapter 5 Land Farms for Fish					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
11	Chapter 5 Land Farms for Fish					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
12	Chapter 6 The Key to Success					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
13	Chapter 6 The Key to Success					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
14	Chapter 7 The Power of Positive Thinking					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
15	Chapter 7 The Power of Positive Thinking					事 前 : 単 語 調 べ 事 後 : 授 業 の 復 習		文 法 30 分、会 話 20 分、 読 解 20 分、writing 20 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Good Grammar, Better Communication (成美堂)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%) 並 び に 試 験 期 間 中 の 英 語 テ ス ト に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 多 く の 機 会 を 利 用 し て、英 語 に 触 れ る よ う に 努 め て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語Ⅲ (English Ⅲ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	小倉 美知子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： テキストを用いて reading, 簡単な質疑応答、reading の題材に応じた短い paragraph writing を行う。 演習の内容は、reading 20分、discussion 40分、writing 30分を基準とする。										
授業目標： 英語で読み、話し、考え、書く力を付ける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Lesson 1					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
2	Lesson 2					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
3	Lesson 3					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
4	Lesson 4					事前：Read the lessons 事後：Review		演習 90分		
5	Lesson 5					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
6	Lesson 6					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
7	Lesson 7					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
8	Lesson 8					事前：Read the lessons 事後：Review		演習 90分		
9	Lesson 9					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
10	Lesson 10					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
11	Lesson 11					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
12	Lesson 12					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
13	Lesson 13					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
14	Lesson 14					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分		
15	Lesson 15					事前：Read the lessons 事後：Review		演習 90分		
教本： <i>Everyday History</i>					参考文献：					
成績評価の方法、評価基準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： 英語で考えよう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	倉 崎 祥 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : コミュニケーションや読解に必要とされる文法や表現力の基礎を固め、講読、速読等も通して活用度の高い英語表現を多く学習する。									
授 業 目 標 : 状況や目的に応じて適切な英語表現ができる語学力の養成。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	導入授業 (授業の概要や進め方、評価方法等の説明)			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
2	Be 動詞			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
3	一般動詞 対話練習			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
4	It's the Titanic!			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
5	進行形			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
6	未来形 対話練習			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
7	A Floating Palace			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
8	助動詞			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
9	名詞・冠詞 対話練習			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
10	Departure			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
11	代名詞			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
12	前置詞 対話練習			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
13	Iceberg			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
14	形容詞・副詞			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
15	まとめ (復習・その他)			事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
教 本 : プリントを配布する。				参 考 文 献 : 授業時に随時紹介する。					
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%)、並びに担当教員による評価 (50%) を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英語への理解を深めるために、英英辞典も活用してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>自立した発話やコミュニケーションがとれるように、より広範囲の英語表現と語彙の修得を目指す。また、具体的な話題だけではなく、抽象的な話題も扱えるように、慣用的な表現や語彙を増やすことを目指す。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 日頃親しんでいる事柄について、標準的な発話や文章を理解できるようになる。 2. 旅行先で起こりうる問題に対応できるようになる。 3. 過去の経験や出来事、将来の夢や希望について説明できるようになる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	<p>導入授業：授業の進め方と授業概要の説明。知識修得を授業の前に済ませ、知識確認を授業で行う反転授業とする。 Unit 1 興味のあることを伝える (be 動詞の現在形などを学ぶ)</p>					<p>事前：— 事後：Lessons A & B 復習</p>		演習・反転授業	
2	<p>Unit 1 スポーツについて話す (現在形などを学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons C & D 予習 事後：Lessons C & D 復習</p>		演習・反転授業	
3	<p>Unit 2 人の性格について話す (be + 形容詞などを学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons A & B 予習 事後：Lessons A & B 復習</p>		演習・反転授業	
4	<p>Unit 2 人の容姿について話す (What ... look like? などの形を学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons C & D 予習 事後：Lessons C & D 復習</p>		演習・反転授業	
5	<p>Unit 3 天候について話す (extremely などの程度の副詞などを学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons A & B 予習 事後：Lessons A & B 復習</p>		演習・反転授業	
6	<p>Unit 3 自分のしたいことを伝える (I'd like...の形などを学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons C & D 予習 事後：Lessons C & D 復習</p>		演習・反転授業	
7	<p>Units 1~3 の復習 (解説・質疑応答)</p>					<p>事前：Units 1~3 復習 事後：Units 1~3 復習</p>		演習 (解説 45分、質疑応答 45分)	
8	<p>小テスト (60分、範囲は Units 1~3) 解説30分</p>					<p>事前：Units 1~3 復習 事後：小テスト自己採点・復習</p>		演習 (小テスト 60分、解説 30分)	
9	<p>Unit 4 家の中にあるものや音について話す (many や much などの数量詞などを学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons A & B 予習 事後：Lessons A & B 復習</p>		演習・反転授業	
10	<p>Unit 4 家事について話す (動詞句などを学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons C & D 予習 事後：Lessons C & D 復習</p>		演習・反転授業	
11	<p>Unit 5 体について話す (deeply, carefully などの様態の副詞などを学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons A & B 予習 事後：Lessons A & B 復習</p>		演習・反転授業	
12	<p>Unit 5 体調について話す (How で始まる疑問文などを学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons C & D 予習 事後：Lessons C & D 復習</p>		演習・反転授業	
13	<p>Unit 6 テレビ番組を見る (動詞 + 不定詞、動詞 + 動名詞などについて学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons A & B 予習 事後：Lessons A & B 復習</p>		演習・反転授業	
14	<p>Unit 6 予定を述べる (進行形を用いた未来形などについて学ぶ) 反転授業とする。</p>					<p>事前：Lessons C & D 予習 事後：Lessons C & D 復習</p>		演習・反転授業	
15	<p>Units 4~6 の復習 (解説・質疑応答)</p>					<p>事前：Units 4~6 復習 事後：Units 4~6 復習</p>		演習 (解説 45分、質疑応答 45分)	
<p>教 本 : Four Corners 2 Workbook (Cambridge University Press) (Student's Book ではないので注意のこと。レベルは2なので、ほかのレベルのものを購入しないように。教科書は英語Ⅳでも同じものを使用する。必ず購入すること)</p>									
<p>参 考 文 献 : 適宜、紹介する。</p>									
<p>成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%) 並 び に 担 当 教 員 に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 す る。</p>									
<p>学 生 へ の ア ド バ イ ス : この科目では英語の実用的能力をしっかりと身に付けることを目標とする。毎回出席するよう努めよう。</p>									
<p>オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	中 村 文 男								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 英語 I ・ II を踏まえ学生諸君の英語運用能力を高めるために、英語を声に出して読み、その英語を書きます。最後に、その英語を書き取り、自分の弱点を確認します。または、その英語を素早く読み概要を理解する授業です。									
授 業 目 標 : 臆せず、意思疎通を図ることができるように英語の運用能力を高めることが目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要等説明					事前： 事後：復習		授業概要 50分 授業内容の要点 40分	
2	Unit 1 Nice to Meet You					事前：Unit 1 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分 書き取り 30分	
3	Unit 2 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分 新聞理解 30分	
4	Unit 3 This is my friend.					事前：Unit 3 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分 書き取り 30分	
5	Unit 4 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分 新聞理解 30分	
6	Unit 5 Where Do People Hang Out?					事前：Unit 5 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分 書き取り 30分	
7	復習及び定着確認 範囲：Unit 1～Unit 5					事前：説明した復習要領で 事後：振り返り		英語で場面の表現確認	
8	Unit 6 I Went to That Place					事前：Unit 6 1 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分 書き取り 30分	
9	Unit 7 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分 新聞理解 30分	
10	Unit 8 I Have a Question					事前：Unit 8 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分 書き取り 30分	
11	Unit 9 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分 新聞理解 30分	
12	Unit 10 Would It Be Possible to Study This?					事前：Unit 10 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分 書き取り 30分	
13	Unit 11 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分 新聞理解 30分	
14	Unit 12 I Have to Miss Next Class					事前：Unit 12 1 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分 書き取り 30分	
15	復習及び定着確認 範囲：Unit 6～Unit 12					事前：説明した復習要領で 事後：振り返り		英語で場面の表現確認	
教本： Encounters on Campus (南雲堂) ¥1,900+税					参考文献： 授業で適宜言及する。				
成績評価の方法、評価基準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%) 並びに試験期間中の英語テストによる評価 (50%) を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： この授業は諸君の英語運用能力を伸ばすための授業です。必ず出席し課題提出する共に声を出し授業に参加することです。なお、上記授業計画は、授業の進捗状況等により変更する場合があります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	中 村 文 人								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 英語 I・II を踏まえ、生活に密着した英語を学び、自らの思いを自然に表現できるようになるため、様々な英語の表現を学びます。リスニングとリーディングの能力を中心として、日常生活で使える生きた英語への理解を目指します。									
授 業 目 標 : 日常生活において、外国人と英語で、初級レベルのコミュニケーションを取れることを目指します。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導 入 授 業 : 授 業 の 進 め 方 と 授 業 の 概 要					事 前 : な し 事 後 : 復 習		授 業 概 要 50 分 英 文 読 解 20 分 アン ケ ー ト 20 分	
2	リ ス ニ ン グ 1 「探 し 物」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
3	リ ス ニ ン グ 2 「体 調」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
4	リ ス ニ ン グ 3 「計 画」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
5	リ ス ニ ン グ 4 「菓」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
6	リ ス ニ ン グ 5 「挑 戦」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
7	リ ス ニ ン グ 6 「新 車」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
8	リ ス ニ ン グ 7 「眠 気」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
9	リ ス ニ ン グ 8 「所 有 物」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
10	リ ス ニ ン グ 9 「贈 り 物」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
11	リ ス ニ ン グ 10 「隣 席」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
12	リ ス ニ ン グ 11 「農 場」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
13	リ ス ニ ン グ 12 「両 親」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
14	リ ス ニ ン グ 13 「夫 婦」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
15	リ ス ニ ン グ 14 「噂」、新 聞 記 事 読 解、統 一 試 験 対 策					事 前 : な し 事 後 : 復 習		課 題 50 分、解 説 40 分	
教 本 : 必要に応じてプリントを配布する。					参 考 文 献 : 授 業 で 適 宜 言 及 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%) 並 び に 試 験 期 間 中 の 英 語 テ ス ト に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必 ず 出 席 し、積 極 的 に 発 言 し て、日 常 生 活 で 使 う 英 語 に 親 し み ま し ょ う。な お、上 記 の 授 業 計 画 は、授 業 の 進 捗 状 況 等 に よ り、変 更 す る 場 合 が あ り ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅳ (English Ⅳ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。買物、観光地、経歴、食品などについての英語応用表現力を身につけます。									
授 業 目 標 : ①英語での挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で必要な各種話題に、簡単な英語で対応できる会話力を身につける③相手に尋ねたり、質問に答えたりするなど、応用表現力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 7 : Shopping (軽い、薄いなど物の形状を説明する)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：形状表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
2	Unit 7 : Shopping (簡単な値段交渉の会話、enoughの会話の中での使い方)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：買物表現の語彙		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
3	Unit 8 : Fun in the city (世界の観光地を説明する、shoudとCanの会話の中での使い方)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：観光地の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
4	Unit 8 : Fun in the city (人に勧めたり、お勧めを聞いたりする表現)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：勧誘表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
5	Unit 8 : Fun in the city (都市の特徴を説明する、比較級の最上級を使った会話)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：都市の説明表現を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
6	Unit 9 : People (職業、経歴を説明する、bornを使った表現)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：経歴表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
7	Unit 9 : People (確かである、不確かであることを伝える表現、会話の中でpositiveを使った表現)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：positiveを使った表現		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
8	Unit 9 : People (個人の経歴を伝える、過去の出来事を説明する表現)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：経歴表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
9	Unit 10 : In a restaurant (食べ物について説明する、会話の中で、a, an, theなどを使い分ける)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：食べ物の表現を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
10	Unit 10 : In a restaurant (フルーツやドリンクについて説明する、会話の中で完了形を使い分ける)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：完了形の表現を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
11	Unit 11 : Entertainment (映画のタイプを説明する、会話の中でneither, eitherを使う表現)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：映画説明の表現を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
12	Unit 11 : Entertainment (音楽のタイプを説明する、会話の中で most of、some ofなどを使い分ける)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：音楽説明の語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
13	Unit 12 : Time for a change (目標について話す、Good News と Bad News について話す)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：目標を語る語彙を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
14	Unit 12 : Time for a change (将来について話す、会話の中で、will、may、mightなどを使って話す)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：将来の説明表現を確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
15	Unit 12 : Time for a change (将来について話す、インタビュー形式での会話)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：インタビュー用語確認		講義40分、会話30分、 ディスカッション20分	
教 本 : Four Corners 2 (Cambridge)					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%) 並びに試験期間中の英語テストによる評価 (50%) を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅳ (English Ⅳ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
英語Ⅰ・Ⅱで学習した英語のさらなる向上を図ります。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニングの能力を習得するためのタスクを行います。									
授 業 目 標 :									
①語彙を増やし、リーディング力を強化します。									
②文法・語法を確認し、英文を書いたり、聴くことによってライティングとリスニング力を習得します。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Chapter 8 A Dog Is Man's Best Friend					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
2	Chapter 8 A Dog Is Man's Best Friend					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
3	Chapter 9 Mushrooms Are a Miracle Food!					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
4	Chapter 9 Mushrooms Are a Miracle Food					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
5	Chapter 10 Protecting Man's Best Friend					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
6	Chapter 10 Protecting Man's Best Friend					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
7	Chapter 11 "Rice" from the Ocean					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
8	Chapter 11 "Rice" from the Ocean					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
9	Chapter 12 Ocean-Aged Wines					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
10	Chapter 12 Ocean-Aged Wines					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
11	Chapter 13 Angry People Aren't Happy People					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
12	Chapter 13 Angry People Aren't Happy People					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
13	Chapter 14 Fast Fashion I a "Mixed" Blessing					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
14	Chapter 14 Fast Fashion Is a "Mixed" Fashion					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
15	Chapter 15 If I Were 20 Again					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Good Grammar, Better Communication (成美堂)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%) 並 び に 試 験 期 間 中 の 英 語 テ ス ト に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 多 く の 機 会 を 利 用 し て、英 語 に 触 れ る よ う に 努 め て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語Ⅳ (English Ⅳ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	小倉 美知子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： テキストを用いて reading、簡単な質疑応答、reading の題材に応じた paragraph writing を行う。 演習の内容は、reading 20分、discussion 40分、writing 30分を基準とする。										
授業目標： 英語で読み、話し、考え、書く力を付ける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Chapter 1					事前：Read the contents 事後：Review		演習 90分		
2	Chapter 2					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
3	Chapter 3					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
4	Chapter 4					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
5	Chapter 5					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
6	Chapter 6					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
7	Chapter 7					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
8	Chapter 8					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
9	Chapter 9					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
10	Chapter 10					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
11	Chapter 11					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
12	Chapter 12					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
13	Chapter 13					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分		
14	Chapter 14					事前：Read all chapter 事後：Review		演習 90分		
15	Chapter 15					事前：Read all chapter 事後：Review		演習 90分		
教本： Aspects of British Culture					参考文献：					
成績評価の方法、評価基準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： 英語で考えよう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 IV (English IV)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	倉 崎 祥 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : コミュニケーションや読解に必要とされる文法や表現力の基礎固め、講読、速読等も通して活用度の高い英語表現を多く学習する。									
授 業 目 標 : 状況や目的に応じて、適切な英語表現ができる語学力の養成。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習・事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前・事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	導入授業			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
2	比較			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
3	命令文・感嘆文 対話練習			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
4	Lifeboat			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
5	接続詞			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
6	不定詞・動名詞 対話練習			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
7	The Miracle of Philip Aks			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
8	受動態・現在完了形			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
9	5 文型 対話練習			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
10	Mr. Smith's White Life			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
11	各種疑問文			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
12	It の特別用法 対話練習			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
13	Together until the End of Their Lives			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
14	関係代名詞			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
15	まとめ (復習・その他)			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
教 本 : プリントを配布する。				参 考 文 献 : 授業時に随時紹介する。					
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%)、並びに担当教員による評価 (50%) を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英語学習への地道な継続的努力を期待しています。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅳ (English Ⅳ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 他者に依存することなくコミュニケーションがとれ、知的な交流ができるようになるための英語表現や語彙の修得を目指す。また、様々な話題ごとの文章の構成や要点が理解できるようになることを目指す。									
授 業 目 標 : 1. 日頃親しんでいる事柄について、標準的な発話が一定の流暢さでできるようになる。 2. 旅行先で起こりうる問題に対応できるようになる。 3. 過去の経験や出来事、将来の夢や希望について簡単な文章の作成ができるようになる。 4. 計画や意見、理由などを述べることができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	知識修得を授業の前に済ませ、知識確認を授業で行う反転授業とする。 Unit 7 商品の説明や比較をする(形容詞の比較級などを学ぶ)					事前: Lessons A & B 予習 事後: Lessons A & B 復習		演習・反転授業	
2	Unit 7 衣料品のサイズなどについて話す(tooやenoughなどを学ぶ)反転授業とする。					事前: Lessons C & D 予習 事後: Lessons C & D 復習		演習・反転授業	
3	Unit 8 旅行について話す(shouldやcanなどの助動詞などを学ぶ)反転授業とする。					事前: Lessons A & B 予習 事後: Lessons A & B 復習		演習・反転授業	
4	Unit 8 都市を比較する(形容詞の最上級などを学ぶ)反転授業とする。					事前: Lessons C & D 予習 事後: Lessons C & D 復習		演習・反転授業	
5	Unit 9 職業や出生地などについて話す(be動詞の過去形などを学ぶ)反転授業とする。					事前: Lessons A & B 予習 事後: Lessons A & B 復習		演習・反転授業	
6	Unit 9 尊敬する人について話す(goの過去形などを学ぶ)反転授業とする。					事前: Lessons C & D 予習 事後: Lessons C & D 復習		演習・反転授業	
7	Units 7~9 の復習(解説・質疑応答)					事前: Units 1~3 復習 事後: Units 1~3 復習		演習(解説45分、質疑応答45分)	
8	小テスト(60分、範囲はUnits 7~9) 解説30分					事前: Units 1~3 復習 事後: 小テスト自己採点・復習		演習(小テスト60分、解説30分)	
9	Unit 10 レストランで注文する(冠詞などを学ぶ)反転授業とする。					事前: Lessons A & B 予習 事後: Lessons A & B 復習		演習・反転授業	
10	Unit 10 食事についての体験を話す(現在完了形の経験用法などを学ぶ)反転授業とする。					事前: Lessons C & D 予習 事後: Lessons C & D 復習		演習・反転授業	
11	Unit 11 映画や演劇について話す(soやtoo、either、neitherなどを学ぶ)反転授業とする。					事前: Lessons A & B 予習 事後: Lessons A & B 復習		演習・反転授業	
12	Unit 11 音楽について話す(all ofやmost of、none ofなどの限定詞を学ぶ)反転授業とする。					事前: Lessons C & D 予習 事後: Lessons C & D 復習		演習・反転授業	
13	Unit 12 やろうとしていることについて話す(to不定詞の目的用法などについて学ぶ)反転授業とする。					事前: Lessons A & B 予習 事後: Lessons A & B 復習		演習・反転授業	
14	Unit 12 将来の夢などについて話す(未来を表すwillや可能性を表すmayやmightなどを学ぶ)					事前: Lessons C & D 予習 事後: Lessons C & D 復習		演習・反転授業	
15	Units 10~12 の復習(解説・質疑応答)					事前: Units 4~6 復習 事後: Units 4~6 復習		演習(解説45分、質疑応答45分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
英語Ⅲで用いた教科書を使用。英語Ⅲ未履修の学生はFour Corners 2 Workbook (Cambridge University Press) を 適宜、紹介する。 購入のこと。Student's Bookではないので注意のこと。レベルは2なのでほかのレベルのものを購入しないように。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価(50%)、並びに担当教員による評価(50%)を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : この科目では英語の実用的能力をしっかりと身に付けることを目標とする。毎回出席するよう努めよう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅳ (English Ⅳ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	中 村 文 男								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 英語Ⅰ・Ⅱを踏まえ学生諸君の英語運用能力を高めるために、英語を声に出して読み、その英語を書きます。最後に、その英語を書き取り、自分の弱点を確認します。または、その英語を素早く読み概要を理解する授業です。									
授 業 目 標 : 臆せず、意思疎通を図ることができるように英語の運用能力を高めることが目標です。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 13 What Are You Doing on Sunday?					事前：Unit 13の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分書き取り 30分	
2	Unit 14 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分新聞理解 30分	
3	Unit 15 What Should We Get?					事前：Unit 15の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分書き取り 30分	
4	Unit 16 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分新聞理解 30分	
5	Unit 17 Yeah, I'll Give You That					事前：Unit 17の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分書き取り 30分	
6	Unit 18 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分新聞理解 30分	
7	復習及び定着確認 範囲：Unit 13～Unit 18					事前：説明した復習要領で 事後：振り返り		英語で場面の表現確認	
8	Unit 19 Come on! I'll Help You					事前：Unit 19の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分書き取り 30分	
9	Unit 20 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分新聞理解 30分	
10	Unit 21 What Should We Do?					事前：Unit 21の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分書き取り 30分	
11	Unit 22 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分新聞理解 30分	
12	Unit 23 I Can Book the BBQ					事前：Unit 23の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分書き取り 30分	
13	Unit 24 英字新聞 要約記事 (外国の出来事について)					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分 授業要点 40分新聞理解 30分	
14	Unit 25 We're Ready to Roll					事前：Unit 25の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分 授業要点 40分書き取り 30分	
15	復習及び定着確認 範囲：Unit 19～Unit 25					事前：説明した復習要領で 事後：振り返り		英語で場面の表現確認	
教 本 : Encounters on Campuse (南雲堂) ¥1,900+税					参 考 文 献 : 授業で適宜紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%) 並びに試験期間中の英語テストによる評価 (50%) を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : この授業は諸君の英語運用能力を伸ばすための授業です。必ず出席し課題提出する共に声を出し授業に参加することです。なお、上記授業計画は、授業の進捗状況等により変更する場合があります。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語Ⅳ (English Ⅳ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	中村 文人									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえ、生活に密接した英語を学び、自らの思いを自然に表現できるようになるため、様々な英語の表現を学びます。リスニングとリーディングの能力を中心として、日常生活で使える生きた英語への理解を目指します。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>日常生活において、外国人と英語で、初級レベルのコミュニケーションを取れることを目指します。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○						◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	導入授業：授業の進め方と授業の概要					事前：なし 事後：復習		授業概要 50分、英文読解 20分、アンケート 20分		
2	リスニング1「交換」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
3	リスニング2「手料理」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
4	リスニング3「歯医者」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
5	リスニング4「壊れ物」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
6	リスニング5「手伝い」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
7	リスニング6「配達」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
8	リスニング7「頭部」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
9	リスニング8「時間」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
10	リスニング9「映画」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
11	リスニング10「飼い犬」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
12	リスニング11「機械」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
13	リスニング12「方法」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
14	リスニング13「予定」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
15	リスニング14「道順」、新聞記事読解、統一試験対策					事前：なし 事後：復習		課題 50分、解説 40分		
<p>教本：</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業で適宜言及する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>必ず出席し、積極的に発言して、日常生活で使う英語に親しみましょう。なお、上記の授業計画は、授業の進捗状況等により、変更する場合があります。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	英 語 学 概 論 A (English Linguistics A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 部 佑 人								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 : 音 声 ・ 単 語 ・ 文 法 ・ 意 味 等 , 様 々 な 観 点 か ら 英 語 学 に つ い て 講 義 す る 。 ひ と つ ひ と つ の テ ー マ が 明 確 に 分 か れ ば , 英 語 学 が 狙 い と し て い る も の が 見 え て く る と 考 え る 。									
授 業 目 標 : 受 講 者 は 英 語 学 的 な 観 点 か ら 物 事 が 分 析 で き る よ う に な る こ と を 目 標 と す る 。 英 語 学 と は 何 か を 理 解 す る こ と が テ ー マ で あ る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ , 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
2	音 声 学 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
3	音 韻 論 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
4	形 態 論 (1) 接 辞 及 び 語 幹 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
5	形 態 論 (2) か ば ん 語 等 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
6	形 態 論 (3) そ の 他 の 形 態 論 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
7	統 語 論 (1) 学 校 文 法 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
8	統 語 論 (2) 構 造 言 語 学 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
9	統 語 論 (3) 変 形 生 成 文 法 等 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
10	統 語 論 (4) コ ー バ ス 言 語 学 等 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
11	意 味 論 (1) 日 本 語 訳 を す る に あ た っ て に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
12	意 味 論 (2) 意 味 の 多 様 性 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
13	語 用 論 (1) 語 用 論 と は 何 か に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
14	語 用 論 (2) 実 際 に 語 用 論 を 用 い て 考 え る に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
15	形 態 論 ・ 統 語 論 ・ 意 味 論 ・ 語 用 論 の 総 ま と め に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
教 本 : 『 新 え い ご ・ エ イ ゴ ・ 英 語 学 』 稲 木 昭 子 ・ 堀 田 知 子 ・ 沖 田 知 子 著 松 柏 社					参 考 文 献 : 授 業 中 に 適 宜 資 料 を 配 布 及 び 紹 介 す る 。 特 に BBC News 等 の イン タ ー ネ ッ ト を 用 い て 無 料 で 学 習 で き る 教 材 を い く つ か 紹 介 し , 利 用 報 告 を し て も ら う 。				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 : 定 期 試 験 (80%) , 毎 回 の 授 業 後 の レ ポ ー ト 等 (20%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : よ く ノ ー ト を 取 る よ う に し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	英 語 学 概 論 B (English Linguistics B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 部 佑 人								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 英 語 学 と は 何 か と い う こ と を 説 明 す る 。 そ し て 、 そ の 英 語 学 的 な 視 点 か ら 物 事 を 分 析 で き る よ う に な る 。 そ の た め に は 、 ノ ー ト を し っ か り 取 る こ と が 重 要 で す 。									
授 業 目 標 : 受 講 者 は 英 語 学 的 な 観 点 か ら 物 事 が 分 析 で き る よ う に な る 。 英 語 学 概 論 B で は 、 特 に 、 英 語 史 に 関 す る 内 容 を 理 解 し 、 日 々 の 英 語 学 習 に 生 か さ せ る よ う に す る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
2	世 界 の 英 語 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
3	英 語 史 (1) 古 英 語 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
4	英 語 史 (2) 中 英 語 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
5	英 語 史 (3) 近 代 英 語 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
6	英 語 史 (4) 現 代 英 語 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
7	英 語 の 語 源 に つ い て に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
8	学 生 発 表 (1) を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		演 習 90 分	
9	現 代 の 英 語 学 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
10	社 会 言 語 学 に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
11	学 生 発 表 (2) を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		演 習 90 分	
12	コ ン ピ ュ ー タ と 英 語 学 (1) BNC corpus に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
13	コ ン ピ ュ ー タ と 英 語 学 (2) COHA, COCA な ど に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
14	学 生 発 表 (3) を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		演 習 90 分	
15	世 界 の 英 語 ・ 英 語 史 ・ 現 代 の 英 語 ・ 社 会 言 語 学 の 総 ま と め に つ い て 講 義 を 行 う 。					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義 90 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『 新 え い ご ・ エ イ ゴ ・ 英 語 学 』 稲 木 昭 子 ・ 堀 田 知 子 ・ 沖 田 知 子 著 松 柏 社					授 業 中 に 適 宜 資 料 を 配 布 及 び 紹 介 す る 。 特 に 、 Dictionary.com な ど の イン タ ー ネ ッ ト を 用 い て 無 料 で 学 習 で き る 教 材 を い く つ か 紹 介 し 、 実 際 に 利 用 報 告 を し て も ら う 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 定 期 試 験 (80%) 、 毎 回 の 授 業 の 最 後 の レ ポ ー ト 等 (20%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : よ く ノ ー ト を 取 る よ う に し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語スピーキング I (English Speaking I)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	岡部 佑人									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他									
授業概要： 本授業では、英語をなるべく多く発言してもらうことを目標とする。多くの演習をこなすことを重視するため、正確性は二の次である。										
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。 2. 数多くの英語を話すこと 3. 相手の英語の発音を聞き取れるようになること										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○						◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Introduction（授業時の注意、成績評価についての確認を行う）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
2	Vacation（休暇について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
3	Growing Up（生まれ育ちについて、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
4	Entertainment（娯楽、趣味について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
5	Food and Drink（食べ物、飲み物について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
6	Travel and Tourism（旅行と観光について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
7	Education（教育、教育制度について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
8	総まとめ					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
9	Fashion（ファッション、衣類について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
10	Living Abroad（海外生活について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
11	Working Life（仕事について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
12	Health（健康について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
13	Changing Times（時代の変遷について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
14	Student Life（学生生活について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
15	Speech Testを行う。					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分		
教本： World Interviews Improving Listening and Speaking Skills（成美堂）					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。					
成績評価の方法、評価基準： 課題およびパフォーマンス（50%）、Speech Test（50%）を総合して評価する。										
学生へのアドバイス： たくさんの英語を話してみましょう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語スピーキングⅡ (English Speaking Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
授業概要： 本授業では、英語をなるべく多く発言してもらうことを目標とする。多くの演習をこなすことを重視するため、正確性は二の次である。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができる。 2. 数多くの英語を話すこと 3. 相手の英語の発音を聞き取れるようになること									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	Introduction (授業時の注意、成績評価についての確認を行う)					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	The Arts (芸術について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	Shopping (買い物について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	Friends (友人、親友について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	Sport (運動、スポーツについて、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	Politics (政治問題について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	Animals (生物、動物について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	総まとめ					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	Money Matters (経済、お金について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	Cultural Identity (文化について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	Family (家族について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	Youth Culture (若者文化について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	Dating and Marriage (デート、結婚について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	Crime (犯罪について、英語で話せるようになる)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	Speech Test を行う。					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本：インタビューで学ぶ世界の英語 World Interviews Improving Listening and Speaking Skills (成美堂)					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 課題およびパフォーマンス (50%)、Speech Test (50%) を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を話してみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 通 訳 I (English Translation I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>国際化が進む中、旅行やビジネス、日常生活において外国人と接する機会が増えている。この授業では、実際に想定されるそれぞれの会話の場面においてよく用いられる英語表現を学びながら、逐次通訳の練習を行う。これによって、これらの場面における実用初級レベルの英日・日英の逐次通訳ができる能力を身につける。</p> <p>英語ニュースの通訳では、比較的ゆっくりした速度の英語ニュースを聞き、日本語に逐次通訳する練習をする。ニュースは毎回、新しい話題をテーマにした30秒程度のものを取り上げる。</p>									
授 業 目 標 :									
旅行等における日常会話の逐次英語通訳能力 (英日・日英) および英語ニュースの逐次通訳能力 (英日) の修得。レベルは実用初級レベル。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction : 授業の進め方と授業概要の説明 (説明・質疑応答)					事前：— 事後：授業概要の復習		演習 (説明 45分、質疑応答 45分)	
2	Conversation (英日・日英逐次通訳) Riding a Train English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：— 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
3	Conversation (英日・日英逐次通訳) Riding a Tin English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
4	Conversation (英日・日英逐次通訳) Taking an Airplane English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
5	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Ryokan English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
6	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Ryokan English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
7	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Hotel English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
8	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Tourist Info Center English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
9	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Tourist Info Center English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
10	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Travel Agency 小テスト (60分、範囲は1~10で学習したところ)					事前：前回内容の復習 事後：小テスト自己採点・復習		演習 (ロールプレイ 30分) 小テスト 60分	
11	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Travel Agency English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
12	Conversation (英日・日英逐次通訳) Sightseeing English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
13	Conversation (英日・日英逐次通訳) Sightseeing English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
14	Conversation (英日・日英逐次通訳) Sightseeing English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分)	
15	Summary : 重要なポイントの解説と全体のまとめ (解説・質疑応答)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習 (解説 45分、質疑応答 45分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教科書は使用しない。プリントを配付する。					適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
英語の基礎を修得していることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 通 訳 Ⅱ (English Translation II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>国際化が進む中、旅行やビジネス、日常生活において外国人と接する機会が増えている。この授業では、実際に想定されるそれぞれの会話の場面においてよく用いられる英語表現を学びながら、逐次通訳の練習を行う。これによって、これらの場面における実用中級レベルの英日・日英の逐次通訳ができる能力を身につける。</p> <p>英語ニュースの通訳では、ナチュラルスピードに近い英語ニュースを聞き、日本語に逐次通訳する練習をする。ニュースは毎回、新しい話題をテーマにした30秒程度のものを取り上げる。</p>									
授 業 目 標 :									
旅行、ビジネス等における会話の逐次英語通訳能力（英日・日英）および英語ニュースの逐次通訳能力（英日）の修得。レベルは実用中級レベル。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction : 授業の進め方と授業概要の説明 (説明・質疑応答)					事前：— 事後：授業概要の復習		演習(説明45分、質疑応答45分)	
2	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Restaurant English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：— 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
3	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Restaurant English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
4	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Restaurant English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
5	Conversation (英日・日英逐次通訳) Shopping English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
6	Conversation (英日・日英逐次通訳) Shopping English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
7	Conversation (英日・日英逐次通訳) Shopping English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
8	Conversation (英日・日英逐次通訳) In the Office English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
9	Conversation (英日・日英逐次通訳) In the Office English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
10	Conversation (英日・日英逐次通訳) In the Office 小テスト(60分、範囲は1～10で学習したところ)					事前：前回内容の復習 事後：小テスト自己採点・復習		演習(ロールプレイ30分) 小テスト60分	
11	Conversation (英日・日英逐次通訳) On the Street English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
12	Conversation (英日・日英逐次通訳) Accidents and Emergency English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
13	Conversation (英日・日英逐次通訳) Accidents and Emergency English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
14	Conversation (英日・日英逐次通訳) Accidents and Emergency English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(ロールプレイ45分、英日通訳実践45分)	
15	Summary : 重要なポイントの解説と全体のまとめ(解説・質疑応答)					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習(解説45分、質疑応答45分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教科書は使用しない。プリントを配付する。					適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英 語 の 基 礎 を 修 得 し て い る こ と が 望 ま し い。毎 回 出 席 す る よ う 努 め よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英語プレゼンテーションA (English Presentation A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前 提 科 目	基礎的なスピーキング力があることを前提とします。英語スピーキングⅠ、Ⅱの履修を推奨します。							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>ネイティブ講師が担当します。英語で伝わるプレゼンテーションスキルを基礎から学びます。プレゼンテーションの基本構成からジェスチャー、アイコンタクトなどの重要スキルをレッスン毎に学習します。ミニプレゼンテーションによる人前での発表や、ブレインストーミングなどグループワークによる議論を深めることで、能動的な各学生の参加を促します。学生が自分の意見を発信できる能力を高めます。</p> <p>授業目標：</p> <p>①身近な話題について自信を持って英語でのプレゼンテーションができるようになる②積極的に授業に参加し、グループワークを通じて、毎週様々なトピックについて、自らの意思を発言したり、相手の意見を聞いてディスカッションしたりできるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	Getting ready (プレゼンの基本事項の確認)、Self-Introductions (自己紹介): プレゼンテーションの概要の学習。問題点を検討。					事前: プレゼン語彙を調べる 事後: プレゼン語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
2	Unit 1 A good friend (パーソナリティや興味のあることなどについて話す): クラスメイトと各自のプロフィールについて話す。					事前: 自己紹介の語彙の予習 事後: 自己紹介の語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
3	Unit 1 A good friend (パーソナリティや興味のあることなどについて話す): 興味のあることを相手に説明する。					事前: 興味、関心語彙の予習 事後: 興味、関心語彙を確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
4	Unit 1 A good friend (プレゼンテーションの始め方、終わり方): プレゼンの定型表現を学習する。					事前: プレゼン定型文の予習 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
5	Unit 1 A good friend (アイコンタクト): 効果的なプレゼンテーションのためのスキルを学習する。					事前: プレゼンスキルの予習 事後: アイコンタクトの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
6	Unit 1 A good friend (意見交換、ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
7	Unit 2 A favourite place (好きな場所について話す): 場所を説明する語彙を学習する。					事前: 好きな場所を考える 事後: 学習した語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
8	Unit 2 A favourite place (プレゼンテーションの始め方、終わり方): 聴衆が持てるように終わる表現を学習する。					事前: 導入と締め表現の予習 事後: 締めの表現の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
9	Unit 2 A favourite place (ジェスチャー、ボディーランゲージ): 姿勢や手の位置の良い例と悪い例を学習する。					事前: プレゼンスキルの予習 事後: ジェスチャーの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
10	Unit 2 A favourite place (意見交換、ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
11	Unit 3 A prize possession (自分の宝物について話す): 自慢の物を相手に説明する。					事前: 所有物の説明の予習 事後: 所有物の説明の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
12	Unit 3 A prize possession (どのような物なのか説明する): 色、形、模様、大きさ、材質などを説明する。					事前: 物の説明表現の予習 事後: 材質などの語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
13	Unit 3 A prize possession (物を見せながら説明する): 相手に興味を持たせながら説明する。					事前: Show-and-tellの学習 事後: Show-and-tellの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
14	Unit 3 A prize possession (意見交換、ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
15	Final Presentations (グループワーク、模擬プレゼンテーションと質疑応答)					事前: 模擬プレゼンの準備 事後: 後期授業の総復習		講義 10分、ディスカッション 20分、発表 60分	
<p>教本： Present Yourself 1, 2nd edition (Cambridge 出版)</p>					<p>参考文献：</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>平常点 (60%)、課題およびパフォーマンス (40%) を総合して評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>人前でのプレゼンテーションだけでなく、事前の準備及び学生同士での意見交換により、自分の意見を英語でいかに伝えたいのかを学びます。英語での発表力及び発信力を身につけるために積極的に授業に参加してください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 プレゼンテーション B (English Presentation B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前 提 科 目	基 礎 的 な スピーキング力があることを前提とします。英語スピーキング I、II の履修を推奨します。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>ネイティブ講師が担当します。英語で伝わるプレゼンテーションスキルを基礎から学びます。プレゼンテーションの基本構成からジェスチャー、アイコンタクトなどの重要スキルをレッスン毎に学習します。ミニプレゼンテーションによる人前での発表や、ブレインストーミングなどグループワークによる議論を深めることで、能動的な各学生の参加を促します。学生が自分の意見を発信できる能力を高めます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①身近な話題について自信を持って英語でのプレゼンテーションができるようになる②積極的に授業に参加し、グループワークを通じて、毎週様々なトピックについて、自らの意思を発言したり、相手の意見を聞いてディスカッションしたりできるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Getting ready (プレゼンの基本事項の確認)、Self-Introductions (自己紹介): プレゼンテーションの概要の学習。問題点を検討。					事前: プレゼン語彙を調べる 事後: プレゼン語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
2	Unit 4 A memorable experience (自分の経験したことを話す): 感動したこと、恐ろしかったこと、驚いたことなどを説明する。					事前: 感情の語彙を調べる 事後: 経験の語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
3	Unit 4 A memorable experience (物事を順序立てて話す): 連続した場面を順序立てて説明する。					事前: 物語の説明語彙の予習 事後: 順序の表現を確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
4	Unit 4 A memorable experience (始め方、終わり方など): "pass the mike"/効果的なプレゼンの終わり方					事前: プレゼン定型文の予習 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
5	Unit 4 A memorable experience (声の大きさに注意する): 声の大きさや抑揚に気をつけて話す。					事前: プレゼンスキルの予習 事後: アイコンタクトの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
6	Unit 4 A memorable experience (ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
7	Unit 5 I'll show you how (技術や能力について話す): 個人の技術力や才能とその有益性について話す。					事前: 自分のスキルを考える 事後: スキルの語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
8	Unit 5 I'll show you how (料理手順を説明する): 動作や変化を順序立てて説明する。					事前: 動作表現の予習 事後: 説明語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
9	Unit 5 I'll show you how (ジェスチャーを的確に説明する): 動作をしながら、その動きを説明する。					事前: 動作説明表現の予習 事後: ジェスチャーの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
10	Unit 5 I'll show you how (意見交換、ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
11	Unit 6 Screen magic (映画やテレビ番組について説明する): 画面の情報を説明する。					事前: 映画の説明表現の予習 事後: 情報の説明表現の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
12	Unit 6 Screen magic (聴衆に映画をお勧めして終わる): 効果的な終わり方を学習する。					事前: 映画の推奨表現の理解 事後: 終わり方の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
13	Unit 6 Screen magic (文の中での抑揚や間を意識して発表する): 効果的な話し方を学習する。					事前: 抑揚と間の効果の理解 事後: 抑揚と間の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
14	Unit 6 Screen magic (意見交換、ミニプレゼン): ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前: プレゼン定型文の確認 事後: プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
15	Final Presentations (グループワーク、模擬プレゼンテーションと質疑応答)					事前: 模擬プレゼンの準備 事後: 後期授業の総復習		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Present Yourself 1, 2 nd edition (Cambridge 出版)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平常点 (60%)、課題およびパフォーマンス (40%) を総合して評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
人前でのプレゼンテーションだけでなく、事前の準備及び学生同士での意見交換により、自分の意見を英語でいかに伝えたいのかを学びます。英語での発表力及び発信力を身につけるために積極的に授業に参加してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 へ る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	英 語 文 学 I (English Literature I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 授 業 で は 文 学 作 品 を 材 料 に、内 容 を 理 解 す る た め の 設 問、文 法 力 の 定 着 を 図 る 問 題、リ ス ニ ン グ 力 を 向 上 さ せ る 練 習 問 題 に よ っ て、様 々 な 英 語 表 現 の 習 得、作 品 理 解、多 様 な 文 化 の 理 解 を 図 る。									
授 業 目 標 : イ ギ リ ス、ア メ リ カ を 代 表 す る 作 家 の 作 品 の 講 読 ・ 鑑 賞 を 通 じ て、読 解 力 を 向 上 さ せ、多 様 な 英 語 表 現 を 学 ぶ こ と を 目 標 と す る。併 せ て、そ れ ぞ れ の 作 家 や 作 品 に つ い て、時 代 的、社 会 的、文 化 的 背 景 を 学 ぶ こ と に よ っ て、多 様 な 文 化 へ の 理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Chapter 1 『トワイライト』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
2	Chapter 1 『トワイライト』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
3	Chapter 2 『ロミオとジュリエット』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
4	Chapter 2 『ロミオとジュリエット』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
5	Chapter 3 『風と共に去りぬ』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
6	Chapter 3 『風と共に去りぬ』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
7	Chapter 4 『ブロックマック・マウンテン』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
8	Chapter 4 『ブロックマック・マウンテン』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
9	Chapter 5 『日の名残り』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
10	Chapter 5 『日の名残り』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
11	Chapter 6 『高慢と偏見』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
12	Chapter 6 『高慢と偏見』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
13	Chapter 7 『ジェイン・エア』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
14	Chapter 7 『ジェイン・エア』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
15	英語文学 I の総括をする					事前： 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
教 本 : A Look at Love in Fiction (Asahi Press)					参 考 文 献 : 授 業 中 に 適 宜 資 料 を 配 布 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 常 に 世 界 の 出 来 事 に 関 心 を 持 ち、積 極 的 に 授 業 に 参 加 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	英 語 文 学 II (English Literature II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 授 業 で は 文 学 作 品 を 材 料 に、内 容 を 理 解 す る た め の 設 問、文 法 力 の 定 着 を 図 る 問 題、リ ス ニ ン グ 力 を 向 上 さ せ る 練 習 問 題 に よ っ て、様 々 な 英 語 表 現 の 習 得、作 品 理 解、多 様 な 文 化 の 理 解 を 図 る。									
授 業 目 標 : イ ギ リ ス、ア メ リ カ を 代 表 す る 作 家 の 作 品 の 講 読 ・ 鑑 賞 を 通 し て、読 解 力 を 向 上 さ せ、多 様 な 英 語 表 現 を 学 ぶ こ と を 目 標 と す る。併 せ て、そ れ ぞ れ の 作 家 や 作 品 に つ い て、時 代 的、社 会 的、文 化 的 背 景 を 学 ぶ こ と に よ っ て、多 様 な 文 化 へ の 理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Chapter 8『息子と恋人』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
2	Chapter 8『息子と恋人』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
3	Chapter 9『ある婦人の肖像』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
4	Chapter 9『ある婦人の肖像』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
5	Chapter 10『グレート・ギャツビー』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
6	Chapter 10『グレート・ギャツビー』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
7	Chapter 11『ある愛の詩』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
8	Chapter 11『ある愛の詩』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
9	Chapter 12『きみがぼくを見つけた日』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
10	Chapter 12『きみがぼくを見つけた日』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
11	Chapter 13『その名にちなんで』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
12	Chapter 13『その名にちなんで』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
13	Chapter 14『ワイフ・プロジェクト』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
14	Chapter 14『ワイフ・プロジェクト』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
15	英語文学IIの総括をする					事前： 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
教 本 : A Look at Love in Fiction (Asahi Press)					参 考 文 献 : 授 業 中 に 適 宜 資 料 を 配 布 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 常 に 世 界 の 出 来 事 に 関 心 を 持 ち、積 極 的 に 授 業 に 参 加 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語ライティング I (English Writing I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
授業概要： 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができるようになることを目的とする。そのため、受講者は英語の文章を授業内外で書くことになる。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 2. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 3. 多くの語彙に触れ、能動語彙を強化する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（シラバス内容の確認をし、実際に英文を書く）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	人主語（英語における主語が人である事例について、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	無生物主語（英語における主語が物や事柄である事例について、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	時制（英語の時制の中でも特に現在形と過去形について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	冠詞（1）（不定冠詞について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	冠詞（2）（定冠詞について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	可算名詞（可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	不可算名詞（不可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	形容詞（1）（形容詞が名詞を修飾する場合について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	形容詞（2）（形容詞が主語に対しての補語になる場合について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	副詞：（形容詞以外の修飾語として、副詞を理解する）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	時制の一致（時制の一致について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	二つの品詞性（二つの品詞性について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	その他、取り扱わなかった文法項目の概観					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	総まとめ（内容の概観を行う）					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題およびパフォーマンス（50%）、定期試験（50%）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を書いてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語ライティングⅡ (English Writing II)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	岡部 佑人									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他									
<p>授業概要：</p> <p>様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができるようになることを目的とする。そのため、受講者は英語の文章を授業内外で書くことになる。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。</p> <p>2. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。</p> <p>3. 多くの語彙に触れ、能動語彙を強化する。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Introduction（シラバス内容の確認をし、実際に英文を書く）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
2	名詞構文 (1) (名詞構文の中でも基本的な用法である原因を示す事例を理解し、書けるようにする)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
3	名詞構文 (2) (名詞構文の中でも時や条件を表す事例を理解し、書けるようにする)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
4	助動詞 (1) (助動詞の根源的用法について理解し、書けるようにする)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
5	助動詞 (2) (助動詞の認識的用法について理解し、書けるようにする)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
6	不定詞（不定詞の本質について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
7	動名詞（動名詞の本質について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
8	不可算名詞（不可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
9	否定 (1) (否定について理解し、書けるようにする)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
10	否定 (2) (否定のなかでも含意否定や部分否定の例も含め、書けるようにする)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
11	受動態（能動態と受動態の両方を書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
12	比較（同等比較・比較級・最上級について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
13	代名詞 It (Itについて理解し、書けるようにする)					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
14	副詞（副詞の種類について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分		
15	総まとめ（内容の概観を行う）					事前：授業内容で英作文 事後：		演習 90分		
教本： なし					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>課題およびパフォーマンス（50%）、定期試験（50%）を総合して評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>たくさんの英語を書いてみましょう。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語リスニングⅠ (English Listening I)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	岡部 佑人									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他									
授業概要： この授業はBBC Newsを聞きます。最初は難しいと思いますが、3ヶ月もすれば、自信がついてきます。何度も繰り返すことで、身につきますので、何度も聞くようにしてください。最終的に英語リスニングの力を高め、英検合格への足がかりとなれば幸いです。										
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. その中でも特に、BBC Newsを聞き取れるようになることを目標とする。 3. 英検準二級程度の英語を聞き取れるようになる。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Introduction, BBC News について					事前：なし 事後：音声の復習		演習 90分		
2	主語（BBC Newsの主語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
3	同格（BBC Newsの主語に対する同格の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
4	動詞（BBC Newsの動詞の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
5	主語と動詞（BBC Newsの主語と動詞の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
6	目的語及び補語（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
7	前置詞（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
8	英検のリスニング（BBC Newsで培ったリスニング力が英検に生かせることを確認する）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
9	書き取り（BBC Newsを実際に取り書き取る）					事前：音声の復習 事後：ディクテーション		演習 90分		
10	固有名詞（BBC Newsの固有名詞について理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分		
11	イントネーション（英語のイントネーションについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分		
12	アクセント（英語のアクセントについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分		
13	ピッチ（英語のピッチについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分		
14	接続詞（BBC Newsの接続詞について理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分		
15	書き取り（BBC Newsを実際に取り書き取る）および総まとめ					事前：ディクテーション 事後：なし		演習 90分		
教本： BBC Newsの音声を用います。					参考文献： 適宜、授業内で紹介します。					
成績評価の方法、評価基準： 課題およびパフォーマンス（50%）、定期試験（50%）を総合して評価する。										
学生へのアドバイス： 英語を精読してみましょう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語リスニングⅡ (English Listening II)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	岡部 佑人									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他									
授業概要： この授業はBBC Newsを聞きます。最初は難しいと思いますが、3ヶ月もすれば、自信がついてきます。何度も繰り返すことで、身につきますので、何度も聞くようにしてください。最終的に英語リスニングの力を高め、英検合格への足がかりとなれば幸いです。										
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. その中でも特に、BBC Newsを聞き取れるようになることを目標とする。 3. 英検二級程度の英語を聞き取れるようになる。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Introduction, BBC News について					事前：なし 事後：音声の復習		演習 90分		
2	主語（BBC Newsの主語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
3	同格（BBC Newsの主語に対する同格の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
4	動詞（BBC Newsの動詞の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
5	主語と動詞（BBC Newsの主語と動詞の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
6	目的語及び補語（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
7	前置詞（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
8	英検のリスニング（BBC Newsで培ったリスニング力が英検に生かせることを確認する）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分		
9	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）					事前：音声の復習 事後：ディクテーション		演習 90分		
10	固有名詞（BBC Newsの固有名詞について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分		
11	イントネーション（英語のイントネーションについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分		
12	アクセント（英語のアクセントについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分		
13	ピッチ（英語のピッチについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分		
14	接続詞（BBC Newsの接続詞について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分		
15	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）および総まとめ					事前：ディクテーション 事後：なし		演習 90分		
教本： BBC Newsの音声を用います。					参考文献： 適宜、授業内で紹介します。					
成績評価の方法、評価基準： 課題およびパフォーマンス（50%）、定期試験（50%）を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： 英語を精読してみましょう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リーディング I (English Reading I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>英語文学を中心に、様々な英文に触れていく授業です。テキストの予習を強くすすめます。予習方法は担当より説明を行います。英文学の文章に触れ、英語への感性を磨くことを目標としています。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。</p> <p>2. 英文学作品について、自分なりの考え方を表明することができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	英文コーパスについて知る。					事前：なし 事後：英文の予習		演習 90分	
2	「85歳の老人」（以下、テキスト中の内容・キーワードを示す）の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
3	「オルダーニー牛の反芻」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
4	「ボジニー青年」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
5	「カタツムリ」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
6	「お住まいはどちらですか」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
7	「アイリーニを幸せに」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
8	「30年前に買ったワイン」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
9	「黄金時代の詩」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
10	「思いの丈、泣かせてあげよう」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
11	「コテージピアノ」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
12	「人を深く愛したことがありますか」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
13	「見た目は穏やか」の部分を読ませる。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
14	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
15	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 教本は用いませんが、必要に応じてテキストの配布を行います。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語を丁寧に読むようにして下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リーディングⅡ (English Reading Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>英語文学を中心に、様々な英文に触れていく授業です。テキストの予習を強くすすめます。予習方法は担当より説明を行います。英文学の文章に触れ、英語への感性を磨くことを目標としています。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 受講生は、様々なジャンルの英文を読み、目的に応じて情報や考え方を整理することができる。</p> <p>2. 英文学作品について、自分なりの考え方を表明することができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	英文コーパスについて知る。					事前：なし 事後：英文の予習		演習 90分	
2	「お見せできる一番の花」（以下、テキスト中の内容・キーワードを示す）の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
3	「あの犬は引っこ掻く」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
4	「そのうち、なんとかなるでしょう」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
5	「さて、いくらにしようか？」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
6	「ロンドンへ行く用事」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
7	「スマイレの香り」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
8	「充実して過ごす」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
9	「三本か四本か」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
10	「ピアノのレッスン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
11	「カルメン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
12	「命」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
13	「4時が過ぎていた」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
14	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
15	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 教本は用いませんが、必要に応じてテキストの配布を行います。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>小テスト・レポート等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>英語を丁寧に読むようにして下さい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 演 習
授 業 科 目 (英 文)	エコツーリズム (Ecotourism)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : エコツーリズムの理念を踏まえて、国内外で実施されているエコツーリズムを検証することにより、自然の保護と観光活用のあり方について修得する。									
授 業 目 標 : ①エコツーリズムの理念と構造について修得する。 ②観光における環境保全・地域資源保護と利用のあり方について修得する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	エコツーリズム論の構造：エコツーリズムの学問的体系について修得する。				事前：エコツーリズムの意味について理解する。 事後：エコツーリズム論の体系を確認する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
2	エコツーリズムの概念：エコツーリズムの発祥、理念、経緯等について修得する。				事前：エコツーリズムの歴史的経緯について考究する。 事後：エコツーリズムの理念について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
3	エコツーリズムの目的と意義：エコツーリズムが目指す地域振興の目的と意義、保護と活用のあり方等について修得する。				事前：エコツーリズムと地域のあり方について考究する。 事後：自然資源の保護と活用について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
4	エコツーリズムの特徴及び類型化：エコツーリズムの他のツーリズムとの差異、エコツーリズムの種類等について修得する。				事前：エコツーリズムの事例を収集する。 事後：エコツーリズムの分類を整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
5	エコツーリズムと施策・法律：エコツーリズム推進法等関連法規及び国等行政における関連施策の内容について修得する。				事前：エコツーリズムに関する国の施策を考究する。 事後：政府エコツーリズムの施策について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
6	エコツーリズムと計画：エコツアー及び受入体制の整備等エコツーリズム実現のためのプロセス及び計画要素について修得する。				事前：“計画”について考究する。 事後：エコツーリズム計画のプロセスを整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
7	エコツアーと商品化：エコツアーの種類、実施内容及び受入体制と地域波及効果について修得する。				事前：エコツアーの既存商品について調査する。 事後：エコツアー実施における地域経済効果について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
8	自然体験プログラム：自然の保護と活用を基本とした自然体験プログラムについて考察する。 ・観光における自然体験プログラムのあり方 ・主として子供を対象としたネイチャーゲーム				事前：体験型観光について考究する。 事後：自然体験プログラムを実践する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
9	エコツーリズムと関連施設：自然保護と利用を踏まえた地域における施設整備及び自然系展示見学施設、エコロッジ、エコパーク等の理念について修得する。				事前：エコの意味について考究する。 事後：自然との去勢について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
10	屋久島とエコツーリズム：屋久島のエコツーリズムの現状、屋久島公認ガイドなどエコツーリズムガイドの役割、制度等について修得する。				事前：地域ガイドの種類について考究する。 事後：エコツーリズムガイドの必要性について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
11	小笠原とエコツーリズム：小笠原におけるエコツーリズムの仕組みと旅行商品特性等について修得する。				事前：小笠原の観光の現状について考究する。 事後：自然と観光のあるべき姿について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
12	エコツーリズム関連ツアー：ジオ・ツーリズム、里山観光など自然との人間とのかかわりをテーマとしたツアーの検証により、エコツーリズムの今後を考える。				事前：エコ関連ツアーの既存商品について調査する。 事後：エコ関連ツアー実施における地域経済効果について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
13	ニュージーランドとエコツーリズム：ミルフォードトラックを始めニュージーランドのエコツーリズムの現状、パッケージ型旅行商品の構造について修得する。				事前：ニュージーランドの観光特性について考究する。 事後：パッケージ型旅行商品の利点について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
14	ネパールとエコツーリズム：高地トレッキングなどエコツーリズムの現状、地域開発と環境変化等について修得する。				事前：ネパールの観光について考究する。 事後：ネパールにおける観光開発の功罪について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
15	【ワークショップ】これからのエコツーリズム：今までの講義をもとにこれからのエコツーリズムのあり方について議論する。				事前：講義の総復習 事後：ワークショップのまとめ			復習 20分 ワーク ショップ 70分	
教 本 : テ キ ス ト は 授 業 ご と に プ リ ン ト を 配 布 す る。					参 考 文 献 : 適 宜 指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 定 期 試 験 及 び 平 常 点 を 加 味 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 観 光 を 構 成 す る 事 柄 に つ い て 全 般 的 に 学 ぶ 授 業 で す。自 身 の 興 味 の 方 向 を 見 出 す つ も り で 受 講 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。基 本 的 に は 在 席 中 は い つ で も 可。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	SDGs と 人 口 (Sustainable Development Goals and Population)							科 目 分 類	基 礎 科 目
担 当 教 員	松 浦 広 明 ・ 庵 原 宏 義								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	メー ル お よ び 授 業 Website を 定 期 的 に チェック する 事 が でき る こと							
授 業 概 要 :									
2015年 9 月 25 日、日 本 を 含 む 193 か 国 の 指 導 者 た ち は、2030 年 ま で に 達 成 す べ き 17 個 の 目 標 と 169 の ターゲ ッ ト で あ る 「持 続 可 能 な 開 発 目 標 (SDGs)」の 採 択 に 合 意 し ま し た。本 講 義 で は、人 口 学 の 視 点 か ら、2030 年 に お け る SDGs の 達 成 に 向 け、世 界 が 直 面 し て い る 課 題 と、そ れ に 対 す る 日 本 お よ び 世 界 の 取 組 み に つ い て 概 観 し ま す。									
授 業 目 標 :									
持 続 可 能 な 開 発 目 標 (SDGs) 達 成 に 向 け た 日 本 お よ び 世 界 全 体 の 取 組 み を 理 解 し、そ の 中 で 自 分 が ど の よ う に 貢 献 でき る か を 考 え、最 終 的 に 実 行 に 結 び つ け る こと。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	持 続 可 能 な 開 発 目 標 (SDGs) に 向 け て (松 浦)					事 前 : な し 事 後 : 第 4 章 (田 中)		講 義 90 分	
2	経 済 成 長 ・ 発 展 と そ の 決 定 要 因 (松 浦)					事 前 : 第 5 章 (田 中) 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
3	貧 困 と 不 平 等 (松 浦)					事 前 : 第 8 章 (田 中) 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
4	国 際 機 関 の 取 組 み (国 連、国 際 機 関) (松 浦)					事 前 : Handout 事 後 : 課 題		講 義 90 分	
5	人 口 と 経 済 (松 浦)					事 前 : UNFPA (2012) 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
6	移 民 と 難 民 (松 浦) グローバル ・ ヘルス の 挑 戦 (松 浦)					事 前 : 第 14 章 (田 中) 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
7・8	海 外 移 住 資 料 館 見 学 ・ ワーク ショ ッ プ (庵 原)					事 前 : な し 事 後 : 課 題		講 義 90 分	
(7)・(8)	(感 染 状 況 に よ り 開 催 でき ない 場 合) 神 奈 川 県 に お け る 移 民 と 難 民 ・ SDGs と デー タ (松 浦)					事 前 : な し 事 後 : 課 題		講 義 90 分	
8	教 育 と 労 働 (松 浦)					事 前 : Ch.8 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
9	こ ど も と 女 性 (松 浦)					事 前 : 第 12 章 ・ 第 13 章 (田 中) 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
10	グ ロー バ ル ・ ヘ ル ス の 挑 戦 (松 浦)					事 前 : 国 連 ミレニアム 開 発 目 標 報 告 2015 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
11	グ ロー バ ル ・ ヘ ル ス の 挑 戦 (松 浦)					事 前 : Handout 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 90 分	
12	新 型 コ ロ ナ ウィ ル ス と 世 界 の 未 来 (松 浦)					事 前 : な し 事 後 : 課 題		講 義 90 分	
13	国 際 観 光 (松 浦)					事 前 : 世 界 観 光 ランキ ング (World Tourism Barometer) 事 後 : な し		講 義 90 分	
14	国 際 防 災 協 力 と レジリエ ン ト な 都 市 (松 浦)					事 前 : 第 11 章 事 後 : 課 題		講 義 90 分	
15	ま と め (松 浦)					事 前 : レポ ー ト 事 後 : な し		講 義 90 分	
教 本 :						参 考 文 献 :			
田 中 治 彦、三 宅 隆 史、湯 本 浩 之 編 「SDGs と 開 発 教 育 : 持 続 可 能 な 開 発 目 標 た め の 学 び」 学 分 社、2016						コ ー ス ウェブ サイ ト に 記 載。			
佐 藤 ・ 松 浦 「SDGs の 人 口 学」 (人 口 学 ライブ ラリー) 原 書 房、Forthcoming									
Sachs, J. "The Age of Sustainable Development" Columbia University Press, New York, USA; 2015									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 でき た か を 評 価 す る。									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の アドバ イ ス :									
授 業 評 価 の 半 分 は 土 曜 日 に 行 わ れ る JICA 横 浜 等 で の 課 外 学 習 (*) の 課 題 に 行 い ま す。定 期 的 に メー ル ・ 授 業 ウェブ サイ ト を 確 認 でき る こと (実 施 は 感 染 状 況 に よ る)。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	SDGsの政治経済学 (Political Economy of Sustainable Development Goals)							科目分類	基礎科目
担 当 教 員	松浦広明・庵原宏義								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	メールおよび授業 Website を定期的にチェックすることができること							
授業概要： 2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者たちは、2030年までに達成すべき17個の目標と169のターゲットで構成された「持続可能な開発目標 (SDGs)」の採択に合意しました。本講義では、2030年におけるSDGsの達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取組みについて概観します。また、現在、第一線で活躍されている経験豊富なプロフェッショナルの方々を招いて、直接、現場の体験を聞くことにより、将来、自らの専門性を生かし、SDGsの達成に自分がどのように貢献していけるのか、国際開発の世界でどうキャリアを築いていくのか、その道を模索する為のヒントと将来のキャリア像を提供します。									
授業目標： ①持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた日本および世界全体の取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。 ②国連機関とのパートナーシップ等、松蔭大学が持っているリソースを利用して、学生として大学を通し、どのようにSDGsに貢献していけるかを考え、最終的に実行に結びつけること。 ③海外での大学院進学や国際開発のキャリアを歩んでいきたい学生に必要な情報とネットワークを作る機会を与えること。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	前期の復習 (松浦)					事前：Handout 事後：授業の復習		講義 90分	
2	法と制度 (松浦)					事前：なし 事後：授業の復習		講義 90分	
3	人権 (松浦)					事前：第10章 (田中) 事後：授業の復習		講義 90分	
4	産業と技術革新 (松浦)					事前：第11章 (田中) 事後：授業の復習		講義 90分	
5	国際貿易 (松浦)					事前：なし 事後：授業の復習		講義 90分	
6	企業と持続可能な開発目標への貢献 (松浦)					事前：なし 事後：課題		講義 90分	
7・8	青年海外協力隊OB・OGとの交流会・技術研修員・日系研修員との交流会 (庵原)					事前：5回講義時に指示する 事後：課題		講義 90分	
(7)-(8)	(感染状況により開催できない場合) ビジネスと人権/水と衛生 (松浦)					事前：なし 事後：課題		講義 90分	
9	テロと紛争 (庵原)					事前：第9章 事後：課題		講義 90分	
10	持続可能な発展と地球環境 (庵原)					事前：Handout 事後：課題		講義 90分	
11	世界の食糧問題 (庵原)					事前：Handout 事後：課題		講義 90分	
12	地球温暖化 (庵原)					事前：Handout 事後：課題		講義 90分	
13	生物多様性 (庵原)					事前：Handout 事後：課題		講義 90分	
14	JICAとODA (庵原)					事前：第7章 事後：課題		講義 90分	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 田中治彦、三宅隆史、湯本浩之編「SDGsと開発教育:持続可能な開発目標ための学び」学分社、2016 佐藤・松浦「SDGsの人口学」(人口学ライブラリー) 原書房、Forthcoming Sachs, J. "The Age of Sustainable Development" Columbia University Press, New York, USA; 2015						参考文献： コースウェブサイトに記載。			
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (50%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業評価の半分は土曜日に行われるJICA 横浜等での課外学習(*)の課題にて行います。定期的にメール・授業ウェブサイトを確認できること (実施は感染状況による)。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	M & A 戦略論 (M & A Strategy)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	佐久間 信夫								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>近年、グローバル競争の激化や国内の経営環境の急激な変化に伴い、日本企業は企業買収や事業の売却など、積極的にM&Aを活用した事業構造の組み換えを行っている。授業はM&Aの理論と実際について多くの事例を用いて解説する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>企業買収や事業売却、敵対的企業買収などの理論について、事例を用いて説明できる。M&Aを行うにあたってどのような手法が用いられているかを理解できる。M&Aを行う企業の内部状況と外部環境について説明できる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の進め方、成績評価の仕方、レポート等					事前：テキストの確認 事後：配布資料の確認		講義 90分	
2	M&Aの意義と目的1 M&Aとはなにか M&Aの件数の変化 M&Aの種類					事前：水平統合効果 事後：垂直統合効果		講義 45分、LTD 45分	
3	M&Aの意義と目的2 シナジー 敵対的企業買収 買収防衛策の種類					事前：TOB 事後：MBO		講義 45分、LTD 45分	
4	M&Aの現状 世界のM&Aの動向 日本企業のクロスボーダーM&A 業態転換のためのM&A					事前：業態転換とM&A 事後：選択と集中		講義 45分、LTD 45分	
5	M&Aの歴史1 アメリカのM&Aの歴史 第1～第2の波第3～第5の波					事前：独占形成とM&A 事後：寡占形成とM&A		講義 45分、LTD 45分	
6	M&Aの歴史2 日本のM&Aの歴史 戦前からバブル崩壊まで 1990年代なかば以降					事前：財閥による産業集中 事後：独占禁止法とM&A		講義 45分、LTD 45分	
7	M&Aの理論1 M&Aの動機 M&Aの理論区分 効率性向上に関する理論 株式市場の評価に関する理論					事前：M&Aの理論区分 事後：経営能力シナジー		講義 45分、LTD 45分	
8	M&Aの理論2 ステークホルダー関係から分析する理論 環境変化対応に関する理論					事前：エージェンシー理論 事後：技術イノベーション		講義 45分、LTD 45分	
9	M&Aの手法1 合併 共同持株会社方式による経営統合 公開買付（TOB）					事前：合併の手続き 事後：公開買付の手続き		講義 45分、LTD 45分	
10	M&Aの手法2 完全子会社化 事業譲渡 会社分割					事前：事業譲渡の手続き 事後：会社分割の手続き		プレゼンテーション 90分	
11	M&Aのプロセス1 M&Aプロセスの視点 プレM&Aの意思決定の課題					事前：デューデリジェンス 事後：外部アドバイザー		プレゼンテーション 90分	
12	M&Aのプロセス2 M&Aプロセスの実際 組織統合の仕組み 効果的なM&Aプロセスの実践					事前：GEキャピタル 事後：企業文化		プレゼンテーション 90分	
13	M&Aの成長戦略1 事業の多角化とM&A 全社レベル戦略とM&A					事前：暗黙知の内部化 事後：多角化の課題		プレゼンテーション 90分	
14	M&Aの成長戦略2 日本企業の多角化と統合					事前：企業成長の測定 事後：連鎖的多角化		プレゼンテーション 90分	
15	事例研究 ①医薬品業界のM&A ②食品業界のM&A ③石油業界のM&A					事前：武田薬品のM&A戦略 事後：アサヒビールのM&A		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>佐久間・中村・文堂編著『M&Aの理論と実際』文真堂</p>					<p>参考文献：</p> <p>佐久間信夫責任編集『増補版 現代経営用語の基礎知識』学文社</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（20%）、レポート（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>実際の企業の事例を通して、M&Aの知識を楽しく学んでください。M&Aの専門用語を正確に理解しましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	沖 縄 文 化 研 究 (Okinawan Studies)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 宰								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
この授業の目的は、とすれば観光やエコツチズムにのみ目の回りがちな沖縄文化を当事者の視点から捉えてみることです。皆さんのほとんどが「遊びに行くところ」と考えているかもしれません。しかし、当地の生活実感から生活世界を考えるなら、本土とも微妙に異なる世界が出現します。多面から考えてみましょう。									
授 業 目 標 :									
ヒトが身体を通じて、どのように「世界」と関わっているのかを考える。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	沖 縄 文 化 の 範 囲					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
2	沖 縄 文 化 の ス テ レ オ タ イ プ と 実 際					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
3	沖 縄 文 化 の ス テ レ オ タ イ プ と 実 際 2					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
4	文 化 人 類 学 か ら み た 沖 縄 文 化					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
5	沖 縄 の 社 会 と 文 化					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
6	沖 縄 の 社 会 と 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
7	始 祖 求 心 的 文 化					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
8	始 祖 求 心 的 文 化 の 現 代 版					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
9	民 俗 文 化 の 創 造					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
10	沖 縄 文 化 と 「 境 界 」					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
11	祖 霊 観 と 他 界 観					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
12	〈ニライカナイ〉の発想					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
13	沖 縄 と 防 衛 問 題					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
14	沖 縄 は パ ラ ダ イ ス か					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
15	ま と め と 復 習					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使 用 し ま せ ン					授 業 内 で 紹 介 す る。た く さ ん 読 ん で く だ さ い。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
私 達 が い か に 常 識 や 良 識 に と ら わ れ て い る か、心 を 真 っ 白 に す る 努 力 を し て み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	沖縄文化研究 I (Okinawan Studies I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
授業概要： この授業の目的は、とすれば観光やエゾチシズムにのみ目の回りがちな沖縄文化を当事者の視点から捉えてみることです。皆さんのほとんどが「遊びに行くところ」と考えているかもしれません。しかし、当地の生活実感から生活世界を考えるなら、本土とも微妙に異なる世界が出現します。多面から考えてみましょう。									
授業目標： ヒトが身体を通じて、どのように「世界」と関わっているのかを考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	沖縄文化の範囲					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
2	沖縄文化のステレオタイプと実際					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	沖縄文化のステレオタイプと実際 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	文化人類学からみた沖縄文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	沖縄の社会と文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	沖縄の社会と文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	始祖求心的文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	始祖求心的文化の現代版					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	民俗文化の創造					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	沖縄文化と「境界」					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	祖霊観と他界観					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	〈ニライカナイ〉の発想					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	沖縄と防衛問題					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	沖縄はパラダイスか					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 使用しません					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	沖縄文化研究Ⅱ (Okinawan Studies Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	沖縄文化研究Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 沖縄文化論Ⅰを受けて、後期ではその範囲を宮古地域に限定して考察します。防衛問題の議論によくみられる「本土ー沖縄」という二分法では見えにくい沖縄の姿を、宮古地域を中心にすえることで違う見方ができるのではないだろうかという視点から授業を進めていきます。									
授業目標： 沖縄文化へのより深い理解									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	宮古文化と沖縄文化					事前：沖縄の島々を確認 事後：授業資料		講義 90分	
2	伊良部島の文化バリエーション					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	村落祭祀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	シャーマニズム					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	世界観と歴史					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	民俗的小宇宙					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	本土文化と民俗文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	法と民俗文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	法と民俗文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	社会組織の変化：祭祀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	社会組織の変化：家族					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	フィールド調査					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	フィールド調査 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	フィールド調査 3					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
教本： 使用しません					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	沖 縄 文 化 史 (Okinawan Studies)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 宰								
履 修 条 件	前 提 科 目	沖 縄 文 化 研 究							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 沖 縄 文 化 研 究 を 受 け て、後 期 で は そ の 範 囲 を 宮 古 地 域 に 限 定 し て 考 察 し ます。防 衛 問 題 の 議 論 に よ く み ら れ る 「本 土 - 沖 縄」とい う 二 分 法 で は 見 え に く い 沖 縄 の 姿 を、宮 古 地 域 を 中 心 に す え る こ と で 違 う 見 方 が で き る の で は な い だ ろ う か と い う 視 点 か ら 授 業 を 進 め て い き ます。									
授 業 目 標 : 沖 縄 文 化 へ の よ り 深 い 理 解									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	宮 古 文 化 と 沖 縄 文 化					事 前 : 沖 縄 の 島 々 を 確 認 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
2	伊 良 部 島 の 文 化 バ リ エ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
3	村 落 祭 祀					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
4	シ ャ ー マ ニ ズ ム					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
5	世 界 観 と 歴 史					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
6	民 俗 的 小 宇 宙					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
7	本 土 文 化 と 民 俗 文 化					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
8	法 と 民 俗 文 化					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
9	法 と 民 俗 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
10	社 会 組 織 の 変 化 : 祭 祀					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
11	社 会 組 織 の 変 化 : 家 族					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
12	フ ィ ー ル ド 調 査					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
13	フ ィ ー ル ド 調 査 2					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
14	フ ィ ー ル ド 調 査 3					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義 90 分	
15	ま と め と 復 習					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 か レ ポ ー ト	
教 本 : 使 用 し ま せ ン					参 考 文 献 : 授 業 内 で 紹 介 す る。た く さ ん 読 ん で く だ さ い。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 私 た ち が い か に 常 識 や 良 識 に と ら わ れ て い る か、心 を 真 っ 白 に す る 努 力 を し て み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	オペレーティングシステム (Operating System)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	井上 明也									
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論、ネットワーク技術、プログラミング基礎								
	その他	ノートパソコンを用意すること								
授業概要： オペレーティングシステムの適用対象は、大型計算機やパソコンが主対象であったが、現在では、スマホ、家電製品、IoT 関連機器等、対象は拡大している。オペレーティングシステムを理解することは、プログラミング技術やシステム開発技術を学ぶ上での基礎知識として非常に重要である。										
授業目標： オペレーティングシステムの主要な概念とその動作原理を理解することを目的とする。また、近年の利用環境の変化を考慮し、ネットワーク機能、セキュリティ機能、運用管理機能等も含めて、幅広く理解することを目指す。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	シラバスの説明、オペレーティングシステムの役割					事前：シラバスを読む 事後：学習内容を復習する		講義		
2	ユーザインターフェース					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
3	プログラミングインターフェース					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
4	オペレーティングシステムの構成					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
5	入出力の制御					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
6	ファイルの管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
7	プロセスとその管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
8	多重プロセス					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
9	メモリの管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
10	仮想メモリ					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
11	仮想化					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
12	ネットワークの制御					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
13	セキュリティと信頼性					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
14	システムの運用管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
15	性能、標準化					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分		
教本： IT Text オペレーティングシステム 改定2版、野口、光来、品川、オーム社、¥3,080					参考文献： 講義内で指示する					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（100%）で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	音楽 (子どもと音楽) (Music)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鹿戸 一範								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 子どもの音楽活動を支える基礎的な技能として、ピアノの演奏技術の習得を目的とする。また、その習得のために必要な音楽の基礎的な知識（楽典）を学ぶ。									
授業目標： 様々な練習曲等を通して、保育現場で求められる基礎的なピアノ演奏技術を身につける事ができる。保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解の深め、楽譜を正確に読みピアノで演奏することができる。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9～16					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17～24					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
5	ハ長調の下属和音 教本 No.25～26					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
6	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.27～32					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
7	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.33～38					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
8	いろいろな伴奏形①・②・③・④ 教本 No.39～42					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
9	高い音の練習 教本 No.43～46					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47～48					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49～54					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
12	ハ長調の音階 教本 No.55～58					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
13	ヘ長調の音階 教本 No.59～61					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
14	ト長調の音階 教本 No.62～67					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
15	これまでの授業のまとめと発表					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
教本： 『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社）									
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	音楽で遊ぶ(音楽表現)(Play with music)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鹿戸 一範								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要： 子どもの音楽活動を支える基礎的な技能として、ピアノの演奏技術の習得を目的とする。また、その習得のために必要な音楽の基礎的な知識(楽典)を学ぶ。</p>									
<p>授業目標： 様々な練習曲等を通して、保育現場で求められる基礎的なピアノ演奏技術を身につける事ができる。保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解の深め、楽譜を正確に読みピアノで演奏することができる。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1~8					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9~16					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17~24					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
5	ハ長調の下属和音 教本 No.25~26					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
6	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.27~32					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
7	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.33~38					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
8	いろいろな伴奏形①・②・③・④ 教本 No.39~42					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
9	高い音の練習 教本 No.43~46					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47~48					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49~54					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
12	ハ長調の音階 教本 No.55~58					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
13	ヘ長調の音階 教本 No.59~61					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
14	ト長調の音階 教本 No.62~67					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
15	これまでの授業のまとめと発表					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
<p>教本： 『教職課程のための大学ピアノ教本』(大学音楽教育研究グループ、教育芸術社)</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(50%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	音声学 (Phonetics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>英語の音声についてテキストを用いると同時に、それに伴うCDを聞きながら授業を進める。間違いやすい、あるいは難しい音声について実践練習をし、英語音の連結、脱落、弱化などの現象を理解するだけでなく、実際に練習を通して体得する。</p>									
<p>授業目標及びテーマ：</p> <p>中学校や高等学校で正しく英語の音声指導ができる力をつけることが目標である。英語の音素、アクセント、リズム、イントネーションなどの特徴を確認することがテーマであり、日本語との比較の視点を取り入れて授業を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクションー本科目を学ぶ意義と授業全体の構成について説明を行う					事前：シラバスを確認する 事後：テキスト記入		演習 90分	
2	音の発声ー母音と子音の種類について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
3	英語のアクセントー音節と強勢、子音結合、句の強勢について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
4	英語のリズムについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
5	紛らわしい母音について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
6	紛らわしい子音について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
7	つながって聞こえる音（連結）について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
8	変化して聞こえる音（同化）について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
9	聞こえなくなる音（1） 単語間の脱落について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
10	聞こえなくなる音（2） 単語内の脱落・短縮形について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
11	英語のイントネーションのパターンについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
12	英語のイントネーションと文中のポーズについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
13	World Englishes について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
14	英語の数量表現の聞き取りについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
15	まとめと復習、音声実技試験を行う。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
<p>教本：</p> <p>『English Sounds, English Minds』（杉森幹彦、大塚朋美、杉森直樹、Paul Evans 金星堂）</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業内で紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 音声実技試験（50%）、小テスト（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>英語の音声をたくさん聴くようにしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									